

令和6年度

第2回 愛媛県社会教育委員会議 資料

令和7年2月28日（金） 13：30～15：30

県庁第一別館10階 教育委員室

愛媛県教育委員会

議題1 令和6年度生涯学習関係事業について

〔まなび推進課〕

資料1

- 「愛媛県生涯学習推進計画（第五次）」について
- 「令和6年度えひめ生涯学習“夢”まつり」について

議題2 令和6年度社会教育関係事業について

〔社会教育課〕

資料2

- 仮設図書館の運営状況について
- 「地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業」の実施状況について
- 「県内の社会教育主事及び社会教育主事有資格者の現状」について
- 「地域教育プロデューサー配置支援事業」の実施状況について
- 「小・中学生のふるさと学習作品展」の実施状況について
- 「協働で支えるヤングボランティア推進事業」の実施状況について

議題3 令和7年度社会教育関係団体への補助金について

〔社会教育課・人権教育課〕

資料3

議題 1

令和 6 年度生涯学習関係事業について

「愛媛県生涯学習推進計画」について

I 第五次計画について

1 計画期間

令和3年度から概ね5年間

※ 策定は令和3年3月

2 計画の構成

基本目標「誰もが生涯学ぶ、愛顔あふれる“学び舎えひめ”の創造」

└ 施策の方向性

- 自立・自律して学ぶ
- 連携・協働して学ぶ
- 学びの成果をふるさとづくりに

└ 推進施策(21)

└ 推進指標(43)

3 推進指標(43)の進捗状況把握(令和7年2月現在)

○ 推進施策ごとに設定した推進指標について、その目標の達成に向けて進捗状況を把握。(事業所管課)

		<R4→R5>	<R3→R4>
現状が前年度数値を上回っている場合	… ↗	27項目	25項目
現状が概ね前年度どおりの場合	… →	6項目	3項目
現状が前年度数値を下回っている場合	… ↘	2項目	8項目
現状値未把握(R7.2時点)	… -	8項目	7項目

※ 指標42については、R2～R5の間、対象となる大会未実施(コロナ影響)

II 次期計画について(予定)

1 計画期間

令和8年度から概ね5年間

2 スケジュール(案)

R7.3月	県民アンケート集計・分析等
4月	計画骨子(案)の作成
4月	第1回社会教育委員会議 … 計画骨子(案)の審議
6～12月	計画素案作成
12月	臨時社会教育委員会議 … 計画素案の審議
R8.2月	第2回社会教育委員会議 … 計画(案)の決定
3月	教育委員会定例会 … 計画の決定

「愛媛県生涯学習推進計画（第五次）」概要

1. 基本的な考え方

- 【国】 第3期教育振興基本計画（H30.6）
第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（R2.9）
障害者の生涯学習の推進方策について（H31.3）
- 【県】 愛媛の未来づくりプラン～第3期アクションプログラム～（R2.3改訂）
愛媛県教育振興に関する大綱（H31.3）

第四次計画 H28年度～R2年度

【基本目標】

誰もが主役で輝き続ける
“学び舎えひめ”の創造

- 施策体系を引き継ぐ
・基本目標→施策の方向性→推進施策→推進指標

- 人生100年時代を豊かに生きるために
- 社会の変化に対応するために
- 「持続可能な開発目標」（SDGs）の理念
- 障がい者の生涯学習の推進

県民アンケート調査（R2.9～10）の結果

- 県民のニーズを踏まえて
・多様な学び、少子高齢化、防災 など

第五次計画 R3年度～（概ね5年で計画見直し）

【基本目標】

誰もが生涯学ぶ、愛顔あふれる“学び舎えひめ”の創造

- 「誰もが生涯学ぶ」とは、子どもから高齢者まで障がいのある人を含む誰もが生涯を通じて学ぶことができるように学習機会の充実を図ること
- 「愛顔あふれる」とは、県民の一人一人が、「ふるさと」に愛着を持ち、愛顔で生涯学習を推進すること
- 「“学び舎えひめ”の創造」とは、県民の一人一人が、自立・自律、連携・協働して学ぶとともに、その学びの成果がふるさとづくりにつながっていく姿をスローガンとしてまとめたもの

【3つの施策の方向性】

- ①自立・自律して学ぶ ②連携・協働して学ぶ ③学びの成果をふるさとづくりに

【21の推進施策】（8つの新規）

- ①人権教育・啓発の推進
- ②環境教育・学習の充実
- ③社会的・職業的自立に向けた教育と社会参加の推進
- ④学び続け、学び直すための情報や場の提供
- ⑤高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり
- ⑥質の高い文化・芸術に親しむ機会の充実
- ⑦誰もが共に学ぶことができる事業の推進
- ⑧地域における防災力の向上

【43の推進指標】（21の新規）

- ①県美術館の年間利用者数、総合科学博物館・歴史文化博物館の入館者数
- ②高校生ヤングボランティアスタッフ登録者数
- ③人権問題に関する研修・講座等の受講者数
- ④環境マイスター派遣回数
- ⑤環境教育・学習参加者数
- ⑥5日間の職場体験学習に取り組んだ公立中学校（県立中等教育学校前期課程を含む）の生徒の活動に関する充実度
- ⑦公立学校において、個別的教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒のうち、実際に作成されている幼児児童生徒の割合
- ⑧ねりんピック参加活動人数
- ⑨県民総合文化祭の参加者数
- ⑩地域学校協働活動取組校数
- ⑪「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」参加者満足度
- ⑫愛媛ボランティアネット会員登録数
- ⑬中学生以上が参加するえひめ未来塾の対象校数
- ⑭NPO法人数（認定NPO法人を含む）
- ⑮障がい者が参加して共に学ぶことができる生涯学習事業を実施した市町数
- ⑯社会教育士数
- ⑰防災士の数
- ⑱自主防災組織の訓練実施率
- ⑲災害ボランティア研修会参加者数
- ⑳県障がい者スポーツ大会の参加者数
- ㉑障がい者芸術文化祭（アート作品展）への出展数

2. ポイント

(1) 社会の変化や県民のニーズに即した計画

国や県の計画のほか、県民アンケート調査の結果などを基に、社会の持続的発展のための学びの推進や多様な人材の協働、障がい者を含む子どもから高齢者まで生涯を通じた学習機会の充実を図り、県民一人一人がふるさとに愛着を持ち、愛顔で生涯学習の推進することを目指す。

(2) 幅広い推進指標の設定

現計画の推進指標(28)から、防災・減災、住民同士の交流、障がい者の生涯学習推進など、関係部局が連携した、より幅広い分野に関する推進指標(43)へと変更する。

施策の方向性(3)		No	推進指標(43)	計画策定時 現状値	令和2年度末 現状値	令和3年度末 現状値	令和4年度末 現状値	令和5年度末 現状値	令和6年度末 現状値	令和7年度末 現状値	目標 (令和7年度)	前年度比					所管課	
No	推進施策(21)											-R2	-R3	-R4	-R5	-R6		-R7
I 自立・自律して学ぶ																		
1	生涯学習に関する意識の向上	①	県民(大人)の生涯学習への参加割合	26.0% (令和2年度)	—	—	—	—				30%	—	—	—	—	まなび推進課	
		②	今後、生涯学習へ参加したいと思う県民(大人)の割合	72.1% (令和2年度)	—	—	—	—					75%	—	—	—	—	まなび推進課
2	生涯学習関連施設の整備と利用促進	3	県民一人当たりの生涯学習関連施設の利用回数(科博、歴博、美術館を除く)	3.9回 (令和元年度)	2.6回	2.2回	3.1回	— (R7.2把握)				4.4回	↘	↘	↗	—	まなび推進課 社会教育課	
		4	県美術館の年間利用者数、総合科学博物館・歴史文化博物館の入館者数	696千人 (平成20～令和元年度の平均値)	322千人	421千人	598千人	705千人					733千人 (令和10年度)	↘	↗	↗	↗	まなび推進課
		5	県内公立図書館の県民一人当たりの年間貸出冊数	4.8冊 (令和元年度)	4.2冊	3.9冊	4.2冊	4.2冊					4.9冊	↘	↘	↗	→	社会教育課
3	青少年の社会参画のための学習機会の充実	6	高校生ヤングボランティアスタッフ登録者数	792人 (令和2年度)	—	1,334人	1,002人	1,184人				1,245人	—	↗	↘	↗	社会教育課	
4	人権教育・啓発の推進	7	人権・同和教育研究大会への参加者数	2,295人 (令和元年度)	1,264人	1,588人	1,191人	1,717人				2,400人	↘	↗	↘	↗	人権教育課	
		8	人権問題に関する研修・講座等の受講者数	9,750人 (平成29～令和元年度の平均値)	5,021人	1,562人	1,741人	3,807人					12,000人以上	↘	↘	↗	↗	人権対策課
5	環境教育・学習の充実	9	環境マスター派遣回数	56回 (令和元年度)	33回	4回	2回	36回				現状値より増加 (令和6年度)	↘	↘	↘	↗	環境・ゼロカーボン推進課	
		10	環境教育・学習参加者数	16,581人 (令和元年度)	9,818人	7,653人	12,315人	12,225人					現状値より増加 (令和6年度)	↘	↘	↗	→	環境・ゼロカーボン推進課
6	社会的・職業的自立に向けた教育と社会参加の推進	11	5日間の職場体験学習に取り組んだ公立中学校(県立中等教育学校前期課程を含む)の生徒の活動に関する充実度	94.7% (令和元年度)	93.6%	97.2%	95.8%	96.3%				97.3%	↘	↗	↘	↗	義務教育課	
		12	公立学校において、個別的教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒のうち、実際に作成されている幼児児童生徒の割合	92.6% (令和元年度)	97.3%	98.1%	98.3%	99.3%					100%	↗	↗	↗	↗	特別支援教育課
7	学び続け、学び直すための情報や場の提供	13	学びあひめ大学対象講座登録数	1,423件 (令和元年度)	1,370件	1,482件	1,602件	1,643件				1,600件	↘	↗	↗	↗	まなび推進課	
8	高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり	14	ねんりんピック参加活動人数	8,950人 (令和元年度)	9,485人	9,213人	9,555人	9,620人				10,000人 (令和5年度)	↗	↘	↗	↗	長寿介護課	
9	質の高い文化・芸術に親しむ機会の充実	15	県民総合文化祭への参加者数	77,143人 (令和元年度)	34,101人	50,125人	56,738人	60,103人				85,000人	↘	↗	↗	↗	文化振興課	
10	生涯スポーツ等を通じた県民同士の学び	16	総合型地域スポーツクラブ会員数	4,960人 (令和元年度)	5,167人	5,103人	3,962人	4,041人				4,300人 (令和9年度)	→	→	↘	↗	地域スポーツ課	
II 連携・協働して学ぶ																		
11	学校・家庭・地域の連携による教育の推進	17	地域学校協働活動取組校数	144校 (令和2年度)	—	174校	180校	193校				198校	—	↗	↗	↗	社会教育課	
		18	地域学校協働活動や家庭教育支援等に携わった地域住民の人数	292,542人 (令和元年度)	159,177人	212,547人	197,793人	216,395人					251,100人	↘	↗	↘	↗	社会教育課
		19	「愛顔でつなぐ”学校・家庭・地域”の集い」の参加者満足度	93.5% (令和元年度)	97.0%	97.0%	99.0%	98.5%					100%	↗	→	↗	↘	社会教育課
12	ボランティアに対する意識の向上	20	県民のボランティア活動への参加割合	45.4% (令和2年度)	—	—	—	—				60.0%	—	—	—	—	まなび推進課	
		21	今後、ボランティア活動へ参加したいと思う県民の割合	67.1% (令和2年度)	—	—	—	—					75.0%	—	—	—	—	まなび推進課
13	多様な主体による次世代育成支援事業の充実	22	愛媛ボランティアネット会員登録数	4,698会員 (令和元年度)	4,843会員	4,954会員	5,099会員	5,218会員				5,100会員	↗	↗	↗	↗	県民生活課	
		23	一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の設置数	53教室 (令和2年度)	—	53教室	52教室	53教室					59教室	—	→	↘	↗	社会教育課
14	地域や民間等との協働による社会貢献・教育活動の提供	24	中学生以上が参加するえひめ未来塾の対象校数	21校 (令和2年度)	—	21校	22校	22校				26校	—	→	↗	→	社会教育課	
		25	えひめ学校・地域教育サポーター登録企業・団体数	201企業・団体 (令和2年度)	—	209企業・団体	222企業・団体	226企業・団体				230企業・団体	—	↗	↗	↗	社会教育課	
		26	えひめ家庭教育サポート企業連携事業協定締結企業数	80社 (令和元年度)	86社	92社	97社	99社					110社	↗	↗	↗	↗	社会教育課
15	生涯学習情報の提供と学習相談の充実	27	NPO法人数	478法人 (令和元年度)	492法人	501法人	507法人	509法人				500法人	↗	↗	↗	↗	県民生活課	
		28	生涯学習情報システムの講座等登録件数	2,912件 (令和元年度)	2,670件	2,671件	2,708件	2,804件					3,000件	↘	→	↗	↗	まなび推進課
III 学びの成果をふるさとづくりに																		
16	誰もが共に学ぶことができる事業の推進	29	障がい者が参加して共に学ぶことのできる生涯学習事業を実施した市町数	3/20市町 (令和2年度)	—	4/20市町	4/20市町	4/20市町				8/20市町	—	↗	→	→	まなび推進課	
17	社会教育活動に対する意識の向上	30	県民の地域活動、公民館活動等への参加割合	38.5% (令和2年度)	—	—	—	—				50.0%	—	—	—	—	まなび推進課	
		31	今後、地域活動、公民館活動等へ参加したいと思う県民の割合	62.0% (令和2年度)	—	—	—	—					70.0%	—	—	—	—	まなび推進課
18	学習成果が循環する体制の充実	32	学びの成果循環のための新たな取組(事業)設立数	3取組(事業) (令和元年度)	3取組(事業)	5取組(事業)	6取組(事業)	8取組(事業)				7取組(事業)	→	↗	↗	↗	まなび推進課 社会教育課	
		33	生涯学習の講師として登録している者の数	805人 (令和元年度)	810人	820人	821人	821人					820人	↗	↗	↗	→	まなび推進課
		34	「ふるさと愛媛学」の成果を生かした学校等への出前授業・出前講座開催市町数	11/20市町 (令和元年度)	10/20市町	10/20市町	9/20市町	8/20市町					14/20市町	↘	→	↘	↘	まなび推進課
19	地域を結び、協働を支える指導者・人材の育成	35	市町における社会教育主事の配置数	18/20市町 (令和2年度)	—	17/20市町	18/20市町	18/20市町				20/20市町	—	↘	↗	→	社会教育課	
		36	社会教育士数	54人 (令和2年度)	—	70人	85人	108人					120人	—	↗	↗	↗	社会教育課
		37	地域づくりリーダー数	295人 (令和元年度)	301人 (令和2年度)	314人	325人	339人					415人	→	↗	↗	↗	地域政策課
20	地域における防災力の向上	38	防災士の数	14,625人 (令和元年度)	16,063人	17,859人	20,018人	23,009人				24,927人 (令和6年度)	↗	↗	↗	↗	防災危機管理課	
		39	自主防災組織の訓練実施率	53.9% (令和元年度)	35.70%	37.8%	43.3%	51.3%					100.0%	↘	↗	↗	↗	防災危機管理課
		40	※1 指標変更 被災者支援金給付の研修会参加者数 (旧指標：災害ボランティア研修会参加者数)	※2 867人 (令和元年度)	※2 935人	※2 1,093人	1,244人	1,503人					1,300人	↗	↗	→	↗	保健福祉課
21	学習成果の発表・体験・交流	41	県主催の生涯学習に関する体験型イベント参加者数	13,000人 (令和元年度)	1980人	2,780人	3,782人	8,681人 (夢まつり1491人 フェスタ1,190人)				20,000人	↘	↗	↗	↗	まなび推進課	
		42	障がい者のスポーツ大会の参加者数	1,885人 (令和元年度)	— (大会中止)	— (大会中止)	— (大会中止)	— (大会中止)					2,000人 (令和9年度)	—	—	—	—	地域スポーツ課
		43	障がい者芸術文化祭(アート作品展)への出展数	274点 (令和元年度)	397点	357点	348点	358点					360点 (令和9年度)	↗	↘	→	↗	障がい福祉課

※「県民の生涯学習に関する参加状況や意見等に係る推進指標(県民アンケートで調査する推進指標)」①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲

【指標の推移】

「前年度もしくは計画策定時を上回った指標」：27項目、「概ね同じ指標」：6項目、「下回った指標」：2項目、現状値未把握(R7年度1月時点)：8項目、No.42はコロナ禍のため対象大会未実施

※1 推進指標40は、所管課(保健福祉課)の事業変更により推進指標変更

※2 旧推進指標40「災害ボランティア研修会」の令和元～3年度の数値

令和6年11月30日（土）、12月1日（日）の2日間、県民文化会館において、

「えひめ生涯学習 “夢” まつり」を開催しました！

日頃から生涯学習に取り組む団体やグループの皆さんが、学習の成果をステージで発表したり、体験コーナーを設けたりするなどして、御来場の方々にも参加・体験して楽しんでいただく生涯学習に関する県内で一番大きなイベントです。

11月30日（土）10:00からのオープニングイベントで、幕を開けました。

- ・お祭り屋たね鼓&種っこによる「和太鼓」演奏
- ・坊っちゃん劇場による「KANO～1931 甲子園まで2000キロ～」パフォーマンス



開会宣言



お祭り屋たね鼓&種っこ



坊っちゃん劇場

ステージ発表

1階県民プラザステージと2階真珠の間ステージにて41団体に御参加いただきました！
華やかな衣装でのダンス、演武、楽器演奏、合唱など、発表者の思いがこもったステージの数々でした。

～ 1階ステージの様子（2日間で22団体が発表）～



フラダンス



チアダンス



演 武

～ 2階ステージの様子（2日間で19団体が発表）～



楽器演奏（コカリナ）



合 唱



ミュージカル

体験コーナー・特設コーナーでは

体験コーナーでは、リース作り、茶道教室、折り紙、缶バッジ作りなど、8団体のブースが出展されました。

また、2階真珠の間では、生涯学習センター、総合科学博物館・科博友の会科学クラブ、歴史文化博物館、美術館等による特設コーナー（特別展示や体験教室など）が出展され、たくさんの御来場の方々に楽しんでいただきました。



クリスマスリース作り



茶道教室



折り紙



生涯学習センター



美術館



総合科学博物館・友の会科学クラブ

特設コーナーでは

2階ロビーでは、四国遍路に関するパネル展示やレクリエーション体験、2階会議室では、県立図書館スタッフや地域ボランティアによる読み聞かせ「伊予おはなしひろば」もありました。

その他、小・中学生のふるさと学習作品の展示、ヤングボランティアの活動紹介、みんなの“夢”で飾る“夢”まつり、スタンプラリーなどたくさんのイベントがありました。

みきゃん、こみきゃん、ダークみきゃんも、遊びに来てくれました。



四国遍路



レクリエーション体験



伊予おはなしひろば



夢まつり



ふるさと学習作品展示



みきゃんたち

議題 2

令和 6 年度社会教育関係事業について

仮設図書館 概要

【設置先】

アイテムえひめ(3F スカイホール・アースホール)

【運営方針】

- ✓ 施設規模等は縮小するが、可能な限り、これまでどおりのサービスを提供
- ✓ 県立図書館の第一義的な役割(市町立図書館や学校図書館等への支援)の継続(強化)

【開館日等】 ※従来どおり

開館期間	令和7年2月1日(土)～令和8年5月頃まで
開館日・時間	火～金 9:40～19:00、土日・祝日 9:40～18:00
休館日	月(祝日の場合、直後の平日)

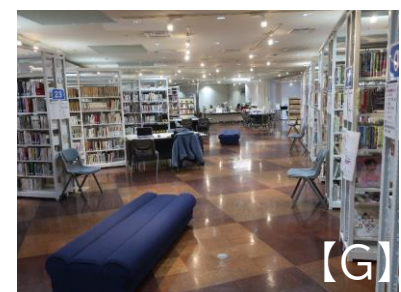
【施設規模】

	現図書館	仮設県立図書館 (現図書館比)	
面積	6,445 m ²	1,060m ²	(16.4%)
開架図書	約11万冊	約3万冊	(27.3%)
閉架図書	約64万冊	約8万冊	(12.5%)
閲覧席	94席	40席	(42.6%)

【主な利用者サービス】

資料の閲覧	△ 一部制限	新聞の閲覧・複写	△ 一部制限
貸出・返却	○ 通常どおり	電子化済地域資料	○ 通常どおり
蔵書検索	○ 通常どおり	インターネット ・商用DB	○ 通常どおり
予約	○ 通常どおり	電子書籍 ・デジタルアーカイブ	○ 通常どおり
レファレンス	△ 一部制限	国立国会図書館 の資料提供	○ 通常どおり

参考資料『仮設図書館 館内状況 [スカイホール]』





お堀の図書館

仮設図書館版

愛媛県
みきゃん

お知らせ・催しもの……………

感染症予防や荒天等のため、予定を変更する場合があります。

仮設図書館を開館します

令和7年2月1日(土)

アイテムえひめに仮設図書館を開館します。スペースが限られるため、ご利用できる資料等は少なくなりますが、ほぼこれまでのサービスを提供します。

詳細は、当館ホームページをご覧ください。直接お問合せください。

なお、松山市堀之内の図書館は、耐震改修等工事に伴い、令和8年8月頃まで閉館します。皆さまにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

在架予約を導入します

仮設図書館でご利用いただける資料は、館内で所蔵する約3万冊と、外部倉庫で所蔵する約8万冊です。このたび、貸出の有無にかかわらず当館ホームページの「MYライブラリ」で予約できる「在架予約」を試験的に導入します。予約資料が利用できるようになりましたら、メールでご連絡します。

なお、外部倉庫は遠方のため、1週間から10日程度、利用までに時間を要します。必ず予約のうえ、当館からの連絡をお待ちください。

「MYライブラリ」の利用に先立ち、パスワードとメールアドレスをご登録ください。

仮設図書館開館中は、隔月刊で発行の予定です。

No.344

2025年2月・3月号

編集・発行 愛媛県立図書館

休館日 ■ カレンダー ……
2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

<仮設図書館オープンイベント>

おはなし会

2月1日(土) 松山おはなしの会
午後2時から(30分程度)

対象：3歳から大人まで
場所：小イベントスペース
申込不要です。
お気軽にご参加ください。



<https://lib.ehimetosyokan.jp/> Mail: tosyokan@pref.ehime.lg.jp
〒791-8057 松山市大可賀2-1-28 アイテムえひめ 3階スカイホール
Tel:089-941-1441 (※図書館からの電話は、「089-995-8198」が表示されます)
Fax:089-941-1454

←パソコン用サイトはこちら

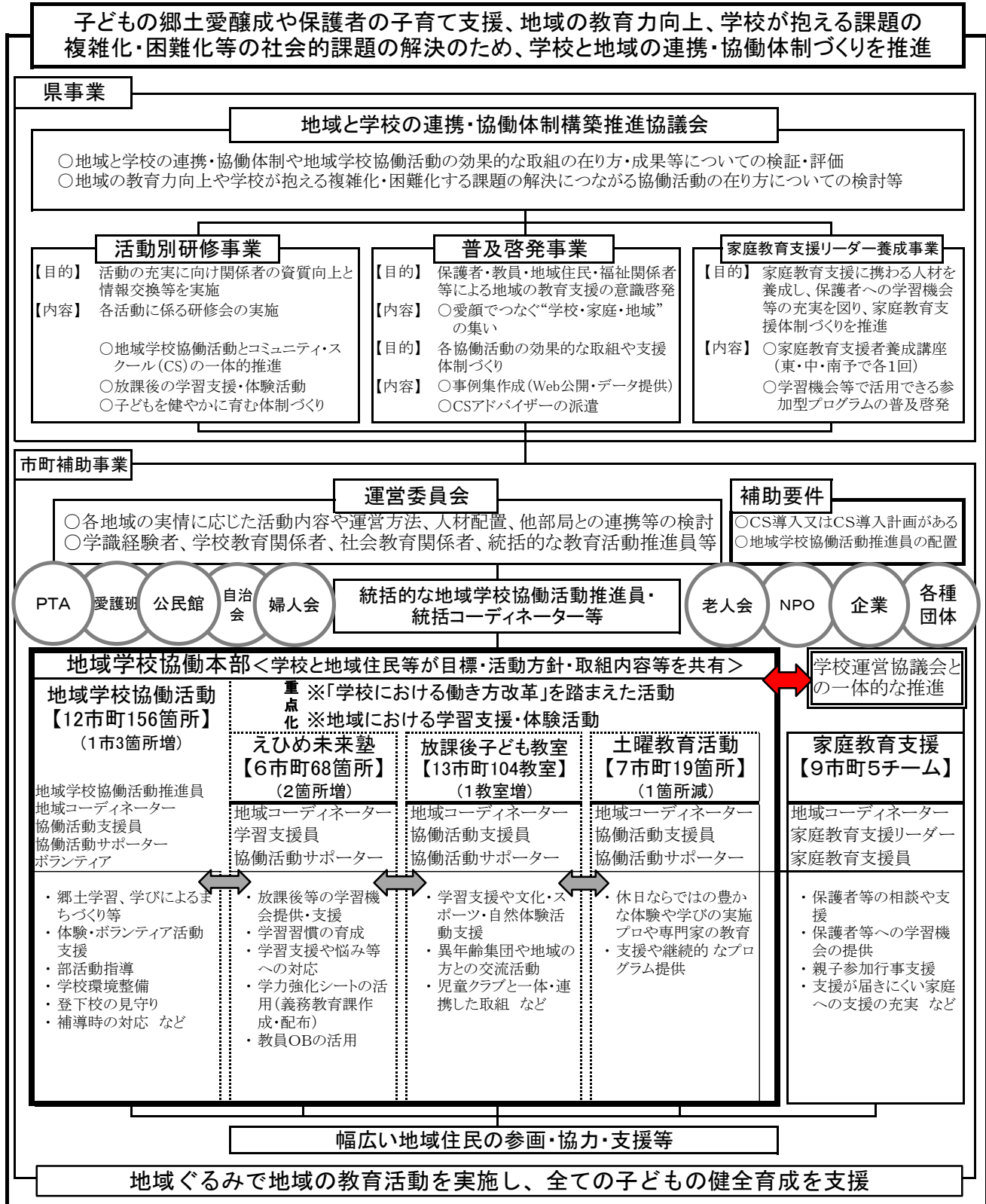
スマートフォン用サイトはこちら→



令和6年度地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業構造

少子高齢化や地域の教育力の低下、学校が抱える課題に複雑化・困難化等が懸念される中、地域の幅広い方々の参画を得て、子どもの学習・体験活動、家庭教育等の支援を通じ、郷土愛の醸成や保護者の子育てを支え、地域で子どもを育てることができるよう、学校・家庭・地域が連携・協働して教育に取り組む体制づくりを一層強化する必要がある。

そこで、各地域と学校が、子どもの健全育成について目標やビジョンを共有することによって、地域住民等の参画による「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の効果的な取組を総合的に実施するとともに、県においても、保護者・教職員・地域住民及び企業関係者等が連携・協働して子どもたちを支える教育環境を整備するため、研修や普及啓発活動等に取り組む。



愛媛県における地域学校協働活動等(令和6年度)

地域学校協働活動等の定義

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校とが連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動

地域学校協働本部

地域学校協働活動推進員(コーディネーター)を中心に、支援員やサポーターなど様々なボランティアが緩やかなネットワークを構築

幅広い地域住民等



地域学校協働活動推進員
地域コーディネーター等

学校と地域の連絡調整
ボランティアの確保



地域学校協働活動等

地域学校協働活動

R 6 : 12市町 156箇所 (+1市 +3箇所)

◆地域住民が学校と連携・協働し、教育活動を支援するとともに、地域住民の自己実現を図り、地域を活性化する活動

主な活動内容

- ・郷土学習、学びによるまちづくり等
- ・体験・ボランティア活動支援
- ・部活動指導
- ・学校環境整備
- ・登下校の見守り
- ・補導時の対応 など



えひめ未来塾

R 6 : 6市町 68箇所 (+2箇所)

◆全ての子どもを対象に地域の参画を得て、子どもが主体的に学習に取り組むことのできる場を設けるとともに、子どもの悩みや相談に応じて学習を支援する活動

主な活動内容

- ・放課後等の学習機会の提供と支援
- ・学習習慣の育成
- ・学習支援や学力強化シートの活用



放課後子ども教室

R 6 : 13市町 104教室 (+1教室)

◆全ての子どもを対象に、安全安心な子どもの居場所を設け、学習や体験活動等を提供する活動

主な活動内容

- ・学習支援や文化、スポーツ自然体験活動支援
- ・異年齢集団や地域の方との交流活動
- ・児童クラブと一体・連携した取組 など



土曜教育活動

R 6 : 7市町 19箇所 (-1箇所)

◆全ての子どもを対象に、企業等の人材を活用した特色・魅力のある教育プログラムを提供する活動

主な活動内容

- ・地域の伝統芸能体験学習支援
- ・環境課題学習支援
- ・郷土学習支援
- ・教科学習の充実・発展
- ・スポーツ教室等の支援



家庭教育支援

R 6 : 9市町 5チーム (±0)

◆保護者等への学習機会や情報の提供、相談体制の構築等を行い、家庭教育支援の基盤を整備する活動

主な活動内容

- ・保護者等の相談や支援
- ・保護者等への学習機会の提供(えひめ家庭教育応援学習プログラムの実施)
- ・親子参加行事支援
- ・支援が届きにくい家庭への支援の充実など



※ 地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業(市町補助事業)での数値

(参考) 本事業以外の取組

- 松山市
 - ・地域学校協働活動4
 - ・放課後子ども教室29
 - ・家庭教育支援チーム1
- 上島町
 - ・地域学校協働活動2



県事業の実施状況

1	地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会
---	----------------------

1 概要

(1) 目的

地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業を、円滑かつ効果的に実施するとともに、地域の教育支援に関する施策の在り方や成果等について検証・評価等を行う。

(2) 委員構成

学識経験者、PTA団体関係者、教員等団体関係者、児童福祉関係者 等

(3) 業務

- 地域学校協働活動及びえひめ未来塾、土曜教育活動、家庭教育支援の在り方・成果についての検証・評価
- 地域と学校の連携・協働体制構築の検討に関すること 等

2 令和6年度委員名簿

役職名	氏名	職名
会 長	中尾 茂樹	愛南町教育委員会教育長 (元愛媛大学教職大学院特定教授)
副会長	神野 文	愛媛県PTA連合会副会長
委 員	山田 誠	愛媛大学教育学部准教授
	川崎美代子	愛媛県連合婦人会副会長
	脇本 俊二	愛媛県小中学校長会副会長
	樋口 志保	愛媛県学童保育連絡協議会会長
	緒方 義彦	愛媛県市町教育委員会連合会会長
	岩本 透	愛媛県経済同友会幹事
	福本 政代	大洲市教育委員会地域コーディネーター
	酒井 あい	公募委員

3 会議の主な内容

回数・実施日	会場	主な協議内容
第1回 R 6. 7. 25 (木)	県立図書館	○事業の概要及び現状、家庭教育支援 ○企業・団体との連携による教育支援について
第2回 R 7. 2. 17 (月)	にぎたつ 会館	○令和6年度事業実施状況報告 ○令和7年度事業実施予定説明

2	活動別研修事業
---	---------

1 目的

「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」に係るスタッフ及び市町教育委員会・学校等の関係者に対し、事例研究や講演等を通して研修を実施し、事業の趣旨・内容について理解を深めるとともに、効果的な取組の在り方について研究を行い、各地域の実践に生かす。

2 研修一覧

研修会名 「研修会テーマ」	実施日 会 場	参加 人数	主な研修内容
<p>「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組推進研修会</p> <p>「地域と学校の協働で育む子どもたちと地域の未来づくり～先進事例から学ぶ地域と学校の連携・協働の在り方～」</p>	<p>R6.11.21 (木) エスポワール愛媛 文教会館</p>	86名	<p>○事業説明</p> <p>○事例発表</p> <p style="padding-left: 20px;">山口県長門市深川中学校 校長 新居 淳治 氏</p> <p style="padding-left: 20px;">宇和島市立吉田中学校 学校運営協議会長 浅田 淳 氏</p> <p style="padding-left: 20px;">校長 行定 永 氏</p> <p style="padding-left: 20px;">教諭 田中 静 氏</p> <p>○グループワーク</p> <p>○助言</p> <p style="padding-left: 20px;">愛媛県CSアドバイザー 一般社団法人コミスクえひめ 副代表理事 遠藤 敏朗 氏</p>
<p>放課後児童対策指導者研修会（兼放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会）</p> <p>※R6.6.28 に予定していた放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会が悪天候により中止となったため、本研修会と兼ねて実施。</p>	<p>R6.12.15 (日) えひめ青少年ふれあいセンター</p>	56名	<p>○行政説明</p> <p>○講演</p> <p style="padding-left: 20px;">「子どもたちの放課後を充実させる地域の役割」 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家所長 中尾 治司 氏</p> <p>○学習支援部会及び体験活動部会</p> <p style="padding-left: 20px;">・学習支援部会 講師：愛媛県総合教育センター情報教育室長 渡部 浩二 氏</p> <p style="padding-left: 20px;">テーマ：「業務に役立つタブレット端末（iPad）活用～初級編～」</p> <p style="padding-left: 20px;">・体験活動部会 講師：NPO法人愛媛県レクリエーション協会 理事・事務局長 松木 紀子 氏</p> <p style="padding-left: 20px;">テーマ：「レクリエーションでコミュニケーション～みんなで楽しく活動するために～」</p>

3 研修の概要

「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組推進研修会

(1) テーマ

地域と学校の協働で育む子どもたちと地域の未来づくり
～先進事例から学ぶ地域と学校の連携・協働の在り方～

(2) 概要

- 日 時 令和6年11月21日(木) 13:00～16:45
- 会 場 エスポワール愛媛文教会館
- 参加者 86名

地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業関係者(地域コーディネーター等)、教職員(特に事業実施地域の先生方)、市町教育委員会職員、社会教育関係団体関係者、地域教育プロデューサー、地域教育協力隊、本事業に関心のある者等

(3) 事例発表

① 県外事例発表「山口県長門市深川中学校」

発表者：校長 新居 淳治 氏

山口県長門市立深川中学校の新居校長に同校の取組を中心に、小中学校の9年間の一貫した教育を推進している「俵山・深川みすゞ学園」の取組を発表していただいた。

山口県では、社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組の推進を目標に掲げ、人づくりと地域づくりの好循環の創出を目指した教育を実践している。その中であって、長門市では公民館を中心として中学校区が結び付く学園構想による小中一貫教育を進め、未来を切りひらく人間性豊かな児童生徒の育成を目指している。

同校では、公民館長が地域学校協働活動推進員であるという強みを生かし、公民館サークルと連携した豊かな体験活動や学校支援活動、NPO法人と連携したキャリア教育プログラムを実施するなど多様な地域の方と連携して活動している。また、地域のイベントや祭りのボランティアや吹奏楽部による出前演奏、小学生への学習支援など、地域の様々な場所で活躍している子どもの様子を紹介していただいた。同校の学校運営協議会は、多くの地域学校協働活動に関わる委員で構成していることから、学校内外の子ども様子を共有しやすく、学校課題の解決に向けた熟議において、子どもも大人も活発に意見を交わすことができている。

また、学園構想による小中学校9年間を貫く学校・地域連携カリキュラムを作成して共有し、子どもの学びや育ちに大人が意図的、系統的に関わっている。そ



のような中、子どもや関係する大人が目標を共有し、活動を振り返りながら、成長を言葉にして語ることで、子どもの自己肯定感が高まり、ふるさとへの愛着を深めることにつながっている。目指すべき子ども像を明確にし、共有し、言葉で語れる指標を持つことの大切さを御教示いただいた。

参考になったこと・感想・意見

- 「最終のゴールやビジョンを周りの大人たちが言語化できるか」という言葉にはっとした。「子どもファースト」になりすぎて、地域学校協働活動が大人の学びの場にもなっているという視点が目からうろこで、みんなにとって良いことがあるということを確認した。
- 小中学校を一つの「園」としてとらえ、9年間の計画を立てるという考え方は、大変参考になった。「園」として連携し、育成計画を立て、実施することができるように、今後自治体との連携を図っていきたい。
- 行政指導による枠組がしっかりしているのは、学校としては取り組みやすい。一方で現在の形になるまでに10年以上試行錯誤しながらの実践を要したと知り、焦らず取り組んでいきたいと感じた。

②県内事例発表「宇和島市立吉田中学校」

発表者：学校運営協議会長 浅田 淳 氏
校長 行定 永 氏
教諭 田中 静 氏



宇和島市立吉田中学校学校運営協議会長の浅田氏、吉田中学校の行定校長、田中教諭に、ふるさとの復興と地域創生にあゆみ続ける学校づくりを目指す同校の取組について発表していただいた。

平成28年度に吉田中学校型学校運営協議会としての歩みを始め、平成30年に地域は西日本豪雨災害に見舞われた。近年では、社会全体が新型コロナウイルス感染症に翻弄されてきた。本協議会では、「災害に強い学校づくりと地域づくり」を協議会運営の根幹に据え、学校と家庭・地域が共に歩むことを目指している。

地域と学校が一体となって取り組んできた未来フェス、災害マップ作りなど、災害復興・防災に向けての取組を紹介いただいた。その中でも、当時の校長や教諭、生徒会役員らをパネリストに招き、災害当時の悲痛な思いや感謝の気持ちなどを語った西日本豪雨災害復興祈念事業では、参加した中学生や地域住民は災害当時を振り返り、記憶を風化させないという思いを新たにすると同時に、自分たちの地域は自分で守るという主体性が育まれてきた。また、被災地支援活動にも熱心に取り組むなど、困っている人のためにできることをしたいという思いも醸成されている。

地域や社会をよくするために何かしたいという子どもたちの思いは、地域の行事の復興にも向けられ、地域の祭りや行事に積極的に参画し盛り上げており、地

域の文化継承にもつながっている。

コミュニティ・スクールを通して、災害からの復興に向け、地域と学校が一体となって取り組むことで、子どもたちの地域愛が育まれ、主体性が培われている多くの取組を御紹介いただいた。

参考になったこと・感想・意見

- 平成30年度の豪雨災害から、見事に復興を進められていることは、地域力の高さだと感じた。
- 被災の記憶が風化しないよう、当事者が語ることで次の世代にもつながっていくと思う。
- 西日本豪雨を契機に自分たちの手で地域を守る主体性がコミュニティ・スクールを通じて養われたことがよく分かった。
- 小中学校及び高等学校の連携を図り、地方祭の運営を図っていることは、次世代を担う人材育成には欠かせないことだと思った。

③グループワーク

指導助言：愛媛県CSアドバイザー

一般社団法人コミスクえひめ 副代表理事 遠藤 敏朗 氏

グループワークでは、参加者が「学校内での取組」「学校外での取組」の二つのテーマについて、地域と学校が連携・協働して実践している（したい）ことについて意見交流を行った。

様々な立場から学校・家庭・地域の連携の在り方について情報交換したり、日頃感じている悩みや課題解決に向けて相談し合う時間を設定したりすることで、今後の活動のヒントや見通しをもつだけでなく、相談し合えるつながりを構築する上で、参加者にとって有意義な時間となった。



指導助言の遠藤氏からは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する上で大切にしたいこととして、「熟議による目標やビジョンの共有」、「熟議や対話を重ねること」、「やってみて、ふりかえること」、「オープンにして、仲間をふやすこと」、「みんなで楽しむ世界を創ること」を挙げていただいた。学校や地域を取り巻く問題解決のための仕組みとして、コミュニティ・スクールを活用し、学校と地域の在り方を変え、地域ぐるみで解決に向けて取り組むことの必要性を御教示いただいた。

参考になったこと・感想・意見

- 地域コーディネーターの取組に対する報酬は十分なものなのだろうか、という疑問を感じた。持続可能な取組にするために、各市町の仕組み作りが大切だ。
- 大学生ならではの視点に驚かされ、10年以上地域コーディネーターをしている方の苦悩などなど実りの多い情報交換の場になった。
- 他地域の方と、具体的な取組や課題などについて情報交換することで、自校の恵まれている点についても再認識することができた。
- 遠藤先生からの助言にあった、より主体性をもたせるために児童生徒に話し合いに参画させるということに取り組んでみたい。

(4) まとめ・今後に向けて

先進事例発表やグループワーク等を通して、各学校及び地域での様々な実践や課題等を情報交換することができた。参加者からは学校・家庭・地域が連携・協働して活動する上で大切なポイントを知ることができたという感想を多くいただき、参加者アンケートの肯定的評価は100%であった。参加者の関心とニーズに合った内容の研修会が開催できたことがうかがえる。

愛媛県内のコミュニティ・スクールや地域学校協働本部は年々増加しているが、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを進めるためには「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組の推進がより一層求められている。今回の研修会の成果と課題を踏まえ、次年度はさらに参加者の学びと実践につながる研修会を目指していきたい。

研修会についての意見、要望等

- 地域コーディネーターの育成は、各市町の仕事だと思うが、県内で横展開できる研修があればいい。
- 社会教育関係（公民館）の方をもっと増やした方がよい。
- 参加者から制度面の不備についての意見が多く出たので、制度面で優れた事例や制度、例規等を学べる研修や資料提供があるとありがたい。

放課後児童対策指導者研修会兼放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会

(1) 概要

- 日 時 令和6年12月15日(日) 12:30~16:25
- 場 所 えひめ青少年ふれあいセンター
- 参加者 56名

放課後子ども教室関係者及びえひめ未来塾関係者(地域コーディネーター及び協働活動支援員等)、放課後児童クラブ職員(放課後児童支援員及び補助員等)、行政担当者 等

(2) 内容

① 講演

演題 「子どもたちの放課後を充実させる地域の役割」

**講師 独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家所長 中尾 治司 氏**

講演講師の中尾氏には、「体験格差」や子どもの成長を支える20の体験、思いが伝わる「言葉」の掛け方等について、子どもたちのために私たち大人や地域に何ができるのかを問題提起いただきながら、御講演いただいた。



体験の有無は、子どもたちの社会情動的スキル(非認知能力)を伸ばす影響が大きいこと、また、子どもたちに指導者の思いを伝える有効な「言葉」の掛け方などを具体的に御教示いただき、参加者は自分自身の日々の活動を振り返り、今後の活動のヒントを得ることができた。参加者アンケートの肯定的評価は、97%であった。

参考になったこと・感想・意見

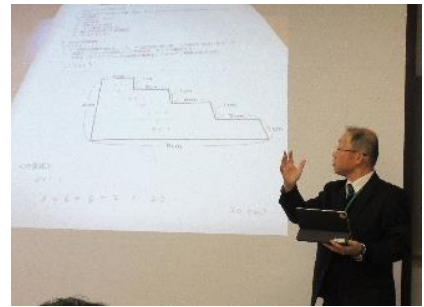
- 提示資料が大変分かりやすく、温かなお人柄が伝わる講演だった。特に、環境づくりの視点にあった四つの項目は、イベントや行事を企画する際に導入していきたい。
- 私にとっては、実に耳の痛い具体例が多く出てきた。当たり前のように子どもたちに掛けていた言葉が、お話の中の様々な理由でふさわしくないという認識を持つことができ、大変勉強になった。
- 子どもたちの成長を見守る地域の役割が重要であるということを強く感じた。家庭に対して配慮が必要なところをサポートしていきたい。
- 子どもたちの体験の大切さや社会情動的スキルに関して新たな学びとなった。また、思いが伝わる「言葉」の掛け方について、私自身反省すべき点も発見することができ、今後の参考にしていきたい。
- この講義を受け、前向きに先を見据えてがんばっていこうと思えた。

②学習支援部会及び体験活動部会

・学習支援部会

講師：愛媛県総合教育センター情報教育室長
渡部 浩二 氏

テーマ：「業務に役立つタブレット端末（iPad）
活用～初級編～」



学習支援部会では、タブレット端末（iPad）を活用した動画の作成や編集方法等について学び、実際にタブレット端末を使用しながら、教材づくりに挑戦した。初級編ということもあり、誰でも簡単な操作方法で動画の作成や編集ができ、日頃の業務の中で導入しやすい内容であった。参加者アンケートの肯定的評価は、96%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 分かりやすい説明と内容であり、大変勉強になった。この研修で学んだことを生かせるように日々iPad等に意欲的に触れていきたい。
- タブレット端末はふだん使用しているが、今日は新たに学習支援への活用という観点から使用した際の有効性について体感することができた。
- iPadの操作方法を分かりやすく丁寧に教えていただき、簡単な動画の作成や編集については理解することができた。今後はまずiPad等に積極的に触れ、利用していこうと思うようになった。
- 私にとってコンピュータ等を利用することは苦手な分野だったが、操作方法を学び、実際に動画を作成することができたので、とても楽しかった。

・体験活動部会

講師：NPO法人愛媛県レクリエーション協会
理事・事務局長 松木 紀子 氏

テーマ：「レクリエーションでコミュニケー
ション～みんなで楽しく活動するた
めに～」



体験活動部会では、身近な物を利用した様々なレクリエーションの手法を教えていただいた。新聞紙でフリスビーを作成して投げ合ったり、チームで競い合ったりと、児童の年齢や属性に応じたレクリエーションの工夫点を御教示いただくとともに、遊びを通じた子どもたちとのコミュニケーションの図り方についても学び、会場は笑顔と歓声であふれていた。参加者アンケートの肯定的評価は、100%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 新聞紙等の身近なものを使ったレクリエーションを教えていただき、早速実践してみようと思った。また、遊びのポイントや注意点を教えていただき、今後の活動の参考にしていきたい。
- 先生の話術に引き込まれ、私自身楽しむことができた。児童クラブでも実践できるレクリエーションを積極的に実践したい。
- この研修が私にとって楽しいものだったので、子どもたちもやってみれば楽しい遊びになると思った。また、子どもたち同士の交流も深まると思う。
- 今まで知らなかった活動が多くあった。今後は、保護者参加型の活動等を取り入れ、今以上にコミュニケーションを取っていききたいと思う。

(3) まとめ・今後に向けて

国の「放課後児童対策パッケージ」（令和6年12月25日）の策定に伴い、「新・放課後子ども総合プラン指導者研修会」を「放課後児童対策指導者研修会」に改め、福祉部局と教育部局相互のより一層の連携を図ることを目的として実施した。研修内容は、県内有識者による講演に加え、今年度は実践的なスキルを学ぶ部会を設け、放課後子ども教室関係者と放課後児童クラブ関係者が交流しながら学ぶこととした。アンケート結果からも子ども教室・児童クラブの今後の活動に参考になる研修会を実施することができたと考える。

今後も引き続き、子育て支援課との連携を強化し、放課後児童対策に関する研修の充実に努め、校内交流型・連携型の促進に努めていきたい。

1 「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」(兼合同研修会)

(1) 目的

県内の幼稚園から高等学校までの保護者・教師・地域住民・福祉関係者・警察関係者・企業等の子どもたちに関わる大人が一堂に会して、研修や情報交換を行い、社会総がかりで子どもたちを育むための方向性を探る。

(2) 概要

- 日時 令和6年8月27日(火) 12:30~16:30
- 場所 愛媛県生涯学習センター・えひめ青少年ふれあいセンター
- 参加者 381名

(3) 内容

① 講演

テーマ 「ひとづくり・つながりづくりで学校が変わる！地域が変わる！」

講師 特定非営利活動法人おむすび 理事長 大畑 伸幸 氏

今年度は、大畑 伸幸 氏を迎え、「ひとづくり・つながりづくりで学校が変わる！地域が変わる！」というテーマで講演いただいた。

島根県益田市では、自らやりたいことや目指したいロールモデルを見付けるためには、保護者や教師以外の多様な大人と出会うことが大切だと考え、「益田版カタリバ」(子どもたちと地域の大人が1対1で対等に語り合う、子どもと地域の大人がつながることを目的としたキャリア教育のプログラム)等、持続可能なひとづくりに取り組んでいる。地域の大人が伴走者となり、子どもたちの「やりたい」を実現する等、子どもを真ん中に据えたひとづくり・つながりづくりは、未来のまちづくりの主体者づくりにもつながると熱く語っていただいた。

参加者は、学校・家庭・地域それぞれが子どもを中心に据えた活動の必要性を確認し、将来を見据えたその地域ならではのビジョンを考えるよい機会となったのではないかと考える。参加者アンケートの肯定的評価は、99.5%であった。



参加者の感想(講演)

- 「まじめにやりなさい。」「ちゃんとしなさい。」「早くしなさい。」という言葉は、問い直さなければならぬと思った。学校教育に関わる方々と共に学校の在り方についても問い直していきたい。学校に余白を！子どもたちに遊びを！
- 子どもたちが思う存分、夢中になる経験づくりを意識したい。
- 地元で安心して帰ってくるができる、世代を超えた関係づくりに感銘を受けた。

参加者の感想（分科会）

- 地域に興味をもつ子どもを育てていくことが重要である。地域の子どもたちを地域で育てることが、次の世代に地域をつなぐ確かな方法だと感じた。
- 様々な立場の人から話を聞くことができてよかった。公民館関係の立場として、子どもたちの居場所となる公民館になるように常に考え、発言・行動しようと思う。
- 中学生や高校生が主体となって企画・運営するイベントを行いたいと思った。イベントの成功体験によって、子どもたちが自信をもつだけでなく、地域への愛着が更に高まると思う。
- 対話によって地域を大切に思う価値観をつないでおり、すばらしいと思った。地域の担い手を育てる取組に、私も関わっていききたい。
- 企業が学校・地域とどのようにつながるか、地元企業として何ができるか改めて考えたい。

参加者からの提言

- 子どもたちが健やかに育つには、失敗や挫折の経験も重要だと感じている。失敗を許したり、適切なアドバイスをしたりする姿勢を大人が見せることが大切ではないか。「子ども」としてではなく、「一人の人」として相対できる社会の実現を求め、その一員でありたいと思う。
- 大人が子どものために教えるのではなく、子どもと共に学べるかというスタンスが大切だということに改めて気付かされた。子どもの「やりたい」を邪魔しない大人の姿、とにかく「楽しんで」活動している大人の姿が結果的に子どもを育てることになると思う。
- 家庭、学校、地域それぞれが子どもを中心に据えた活動の必要性を確認し、将来を見据えたその地域ならではのビジョンを策定し、できることから取り組むことが大切だ。

(3) まとめ・今後に向けて

今年度は、県公式SNSを活用する等、本集いの開催を広く周知したことで、保護者や教職員、教育支援関係者等の地域の多様な年齢や立場の方々に参加していただいた。分科会では、新たなテーマを設け、学校及び企業等の多様な団体に事例発表をしていただくとともに、社会総がかりで子どもを育む体制づくりについて協議し、多くの参加者から肯定的評価を得ることができた。

今年度のアンケートや反省を活かし、参加者のニーズ、現代的課題と社会の要請等を取引し、来年度の講演講師や分科会のテーマを設定したい。また、愛媛の子どもたちの健やかな育ちのために、学校・家庭・地域の連携・協働について社会全体で考え、学び、深めていくことのできる「集い」にしていきたい。

2 事例集の作成・配布

(1) 内容

県事業及び「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の取組について、実施市町の優れた実践事例を冊子に取りまとめ、関係者等に提供する。

(2) 配布先

県教育委員、社会教育委員、地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会委員、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長、各市町地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業担当課長、学校教育主管課長、児童クラブ主管課長、各小中学校長、各公民館長、教育関係団体長、各保健所長、子ども・女性支援センター所長、県立社会教育施設長、各教育事務所長、教育委員会事務局関係課長、保健福祉部子育て支援課長 等

(3) 配布方法

データの提供及びホームページでの公開

3 CSアドバイザーの派遣

(1) 内容

市町又は県立学校からの要請に応じ、地域学校協働活動又はコミュニティ・スクールについて、知識と情報が豊富であり、実践に携わった実績を有する者（以下「CSアドバイザー」という。）を派遣することにより、県内全ての公立学校におけるコミュニティ・スクールの導入及びその機能の充実を図るとともに、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な取組の推進を図る。

(2) CSアドバイザー

一般社団法人コミスクえひめ 副代表理事 遠藤 敏朗 氏

(3) 派遣内容

	日 時	会場等	業務内容
1	R 6. 5. 27 (月)	久万高原町立 父二峰小学校	第 1 回ふじみね学校支援連絡協議会における指導助言
2	R 6. 6. 26 (水)	久万高原町立 面河小学校	面河小学校第 1 回学校運営協議会における指導助言
3	R 6. 9. 27 (金)	中予地方局	「ともに進める」コミスク学習会における指導助言等
4	R 6. 10. 2 (水)	愛媛県立 内子高等学校	校内研修会における指導助言
5	R 6. 11. 18 (月)	伊予市役所	伊予市コミュニティ・スクール導入推進会議における指導助言
6	R 6. 12. 10 (火)	オンライン	令和 6 年度「地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業」第 2 回説明会における指導助言
7	R 7. 2. 5 (水)	中予地方局	第 2 回「ともに進める」コミスク学習会における指導助言等

家庭教育支援に取り組む地域の人材発掘やリーダー養成のための講座及び研修会等を実施するとともに、保護者に対する学習の機会や情報提供等に活用できるプログラム集「愛顔の子育てトーク&わーく応援プログラム集（通称：「トクわく」）」の普及啓発を図り、地域全体で家庭教育を支える体制づくりを推進する。

家庭教育支援者養成講座

1 目的

家庭教育支援に関する最新の情報提供や「トクわく」のワークショップを進行するために必要なスキルの習得を目的とした講座を実施し、子育ての悩みや不安を気軽に話し合える体制や人材養成を図る。

2 テーマ

「トークでわーくわく♪話合いから始まる家庭教育支援」

3 概要

オンデマンド配信と対面による全2回の講座を実施した。第1回では、YouTubeによる限定公開で動画配信を行い、受講者のタイミングで講座を視聴することができるようにした。第2回の講座では、東・中・南予の3会場で開催し、受講者が参加可能な開催日や会場を選んで参加できるようにした。また、全2回の講座の修了者には、修了証を配付するとともに、希望者には子育てや家庭教育支援に関する継続的な情報提供を行うこととしている。

4 内容

(1) 第1回：「これからの家庭教育支援」（オンデマンド配信）

地域全体で子育てをする上で大切なことや子育て世代が地域活動に参加するためのアプローチの仕方等の講話を通して、子育てや家庭教育支援に関する基礎的な知識を習得する。

○講義① 「1人の子どもを育てるには、街中の人たちの協力が必要です！」

講師 中尾 茂樹 氏

(愛南町教育委員会教育長/元愛媛大学大学院教育学研究科特定教授)

《講義内容》

今、地域のコミュニティの希薄化が指摘されている中、社会全体で協働しながら人を育てる「地域教育の推進」がこれからの家庭・学校・地域には欠かせない。地域全体が、相手の「思い」に関心を寄せ、その思いを尊重しながら関わることで、関係性が良くなるとともに、良い関係を築き、困ったときに「助けて」と言えるつながりを築きたい。

受講者の感想

- 間違えることは悪いことではなく、一緒に考えたり学んだり、お互いを知ったりするために大切なきっかけであることが分かった。新たな気づきがあり、安心して子育てや支援活動に関われると感じた。(NPO法人関係者)
- 子どもに寄り添うことは、導くのではなく、一緒に入り込むことが大切だと理解した。支援をする際には、童心に戻って一緒に感動することが大切だと保護者に伝えていきたい。(学校関係者)

○講義② 「“保護者・子ども・地域が豊かになる” 家庭教育支援とは」
講師 宮嶋 晴子 氏
(九州女子短期大学教授)

《講義内容》

保護者が居心地のよい人や場に出会い、主体的に子育てを学びながら子どもとともに成長することで、家庭教育支援の担い手への意識が生まれ、支援されていた立場から地域をつくる主体として活動する循環の仕組みをつくることが重要である。子育て中の保護者が、地域活動に参加するための「はじめの一步」が踏み出せるような周りへのアプローチもしていきたい。

受講者の感想

- 支援されていた立場から支援する役割が変わっていく保護者の心境の変化が、段階的によく分かった。はじめの一步を踏み出して、語り合う場所を見つけることは、子育て世代は特に大切だと感じた。人とのつながりの中で学ぶことは多いと思う。(家庭教育支援チームスタッフ)
- 子育てには正解がなく、成長過程においてずっと悩み続けるものである。理想の子育てではなく、リアルな子育てについて、頑張っている保護者への自信の回復につながる支援を大切に考えたい。(公民館関係者)

(2) 第2回：「家庭教育支援の実際」(対面)

家庭教育支援の取組に関する最新の情報を得るとともに、プログラムの演習を通して、ワークショップを進行するために必要なスキルを習得する。

開催日時	地区	会場
9月19日(木) 13:00~16:00	南予	愛媛県南予地方局
9月25日(水) 13:00~16:00	中予	エスポワール愛媛文教会館
9月26日(木) 13:00~16:00	東予	西条中央公民館

○事例発表 「かがやく笑顔をもとめて～16年間のあゆみ～」

発表者 和歌山県橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」



代表 森田 知世子 氏
前語り合い班長 上田 ひと美 氏
家庭訪問部長 松本 祐代 氏

《発表内容》

公民館やこども園などで年間100回以上講座を開き、手作りおもちゃ教室や本の読み聞かせなどを通じて、保護者同士が語り合い、子育ての悩みなどを共有する場づくりや学習機会の提供、訪問型支援による相談対応、SNSや情報誌等を利用した情報提供など、チーム員の得意分野を生かしたきめ細かな実践を紹介していただいた。



受講者の感想

- つながりを待つのではなく積極的に行動されている。バイタリティーと安心、心強さ、愛を感じた。ゆりかごから思春期までのサポートがすばらしい。楽しく周囲を巻き込まないといけないと思った。主催者が笑顔で楽しく取り組まれているのが何よりすてきである。(ボランティアグループ関係者)
- とても積極的な活動をうらやましく思うと同時に、当市でも、家庭教育支援チームをスタートできないかと考えるいい機会となった。生涯学習課の方の声掛けから始まったと聞いたので、私もどんな形でも始められたらと思う。(行政職員)

○ 「トクわく」プログラム演習 愛媛県教育委員会社会教育課職員

《演習内容》

「愛顔の子育てトーク&わーく応援プログラム集(通称:トクわく)」を活用したワークショップを行った。参加者は、子どもの褒め方に関するテーマで話し合いを体験するとともに、子育てをテーマにしたサイコロトークの進行役を経験することで、プログラムの進行に必要なスキルを習得することができた。

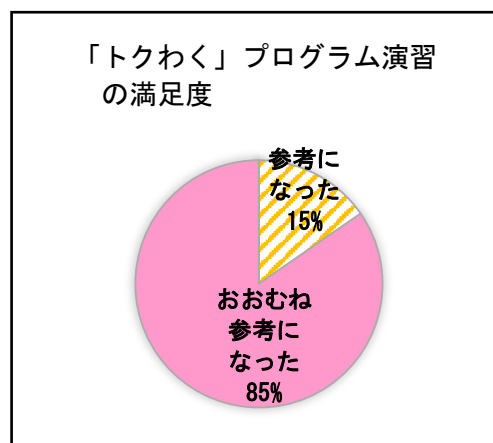
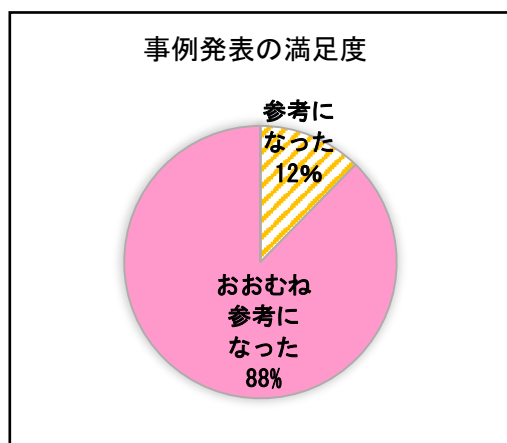
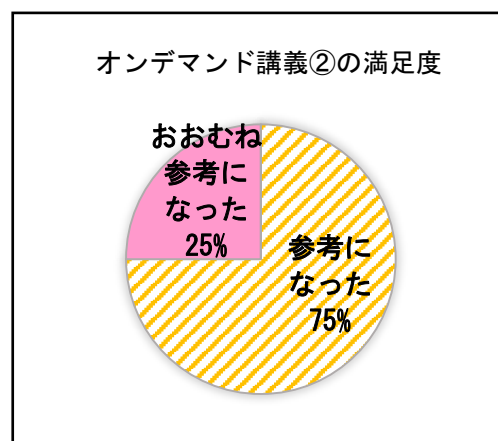
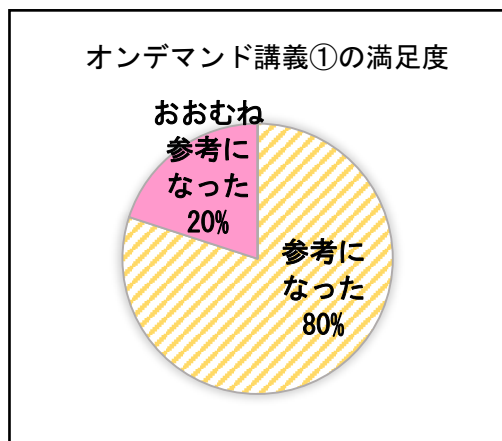
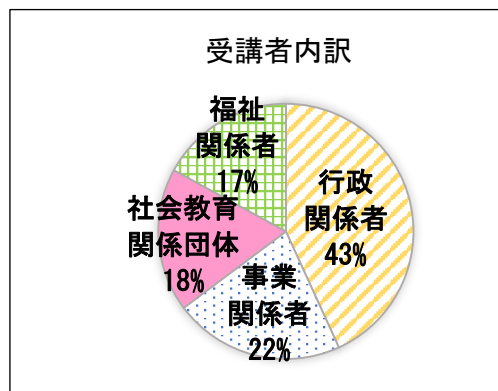


受講者の感想

- 同じグループの方の様々な考えを聞くことで、共感したり発見があったりして楽しかった。また、自分自身を振り返る機会にもなった。(企業関係者)
- 話し合いで人に共感してもらえることで、安心感を得られることが分かった。3人の子育て中で悩むことが多い日々だが、同じグループの先輩方に「それでいいのよ」と言われ、うれしかった。(PTA関係者)

5 アンケート結果について

行政関係者、事業関係者、社会教育関係団体関係者、福祉関係者をはじめとする102名が受講した。講座の内容については、「おおむね参考になった」「参考になった」の肯定的評価がいずれも100%と高い評価を得ており、受講者の関心とニーズに合った講座であったことがうかがえる。



6 まとめ・今後に向けて

オンデマンド形式の講座は、子育てや家庭教育支援に関する新たな知識の獲得につながるとともに、悩みを抱える保護者への支援の在り方について具体的なアプローチの仕方を考える契機となった。

事例発表やプログラム演習では、家庭教育支援チームで行っている様々な講座や保護者への情報提供等の実際を知るとともに、参加者同士のつながりや新たな気付きを得ることができるといった「トクわく」の効果を実感することができた。

受講者が100名を超え、家庭教育支援の機運が醸成されつつある今、人材の発掘・養成を継続しながら、養成した支援者がつながり、新たな支援チームの結成や県内家庭教育支援チームの活性化に向けた取組を促進させたい。

「トクわく」の普及啓発

1 市町教育委員会や社会教育関係団体、保健福祉部局への普及啓発

市町教育委員会担当者をはじめ、PTA、愛護班、公民館、婦人会等の社会教育関係団体、児童館や児童クラブ等の保健福祉部局に対し、「トクわく」の概要を説明し、関係者への周知や活用を依頼した。

2 出前講座の実施

県社会教育課職員が、PTA、愛護班、公民館、子育て支援センター等において計6回開催した。(R7.1.31現在)「トクわく」のねらいや活用事例を説明したり、プログラムを体験したりすることを通して、社会教育関係団体や保健福祉関係団体等における研修会や子育て講座等での活用を周知した。



3 「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」でのPR

「子育て・家庭教育支援」をテーマとする分科会において、「トクわく」を使った活用事例の紹介、「我が家のルールづくり」をテーマにしたプログラムの体験を通して、「トクわく」の普及啓発を図るとともに、保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりについて協議を深めた。



4 まとめ・今後に向けて

「トクわく」は、幼稚園や保育園、小学校、愛護班、PTA、子育て支援センター、児童館、企業等、県内20か所以上の講座や研修会等で活用されており、徐々に認知度が上がっている。今後、子育て講座等での活用が期待される子ども家庭センターや地域子育て支援拠点等の保健福祉部局への普及啓発を展開することで、出産前から子育て期までの幅広い保護者が、安心して悩みや不安を相談できる支援体制の構築を図っていきたい。

模擬出前授業

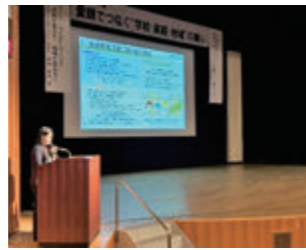
えひめ学校・地域教育サポーターを活用して、子どもたちの豊かな学びや体験の充実を図ろう

「えひめ学校・地域教育サポーター」は、学校及び地域における教育活動に対して支援を行う企業、団体等です。子どもたちの豊かな学びや体験活動の促進を図ることを趣旨としており、現在、224の企業団体が登録しています。
(R6.10月時点)

本制度に登録している企業・団体等のプログラムを体験♪

模擬出前授業として、株式会社伊予銀行のプログラムを参加者に体験してもらいました。お金の大切さについて児童・生徒の立場になって考える貴重な時間となりました。

そして、次の七つの企業・団体に提供プログラムの内容について詳しく説明してもらいました。参加者は、自身の活動にどのように活用するか考えながら、熱心に耳を傾けていました。



模擬出前授業の様子



個別ブース説明の様子

今回協力いただいた企業・団体

- 愛媛県歴史文化博物館
- 公益社団法人愛媛県看護協会
- 日本赤十字社愛媛県支部
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会
- 公益財団法人日本漢字能力検定協会
- 金融リテラシー向上コンソーシアム
- SMBCコンシューマーファイナンス株式会社

参加者の声

- 伊予銀行の模擬出前授業や三つの企業・団体の話を聞き、ぜひ子どもたちに体験させたり、聞かせてあげたいと思いました。実施してみたいと思います。(教職員)
- 企業が学校・地域とどのようにつながるか、地元企業として何ができるか改めて考えたいと思います。(企業関係者)
- いろいろなものに実際に触れたり、見たりすることによって子どもたちは、より関心をもち、理解が深まると思います。(地域ぐるみ事業関係者)

詳細はこちら

えひめ学校・地域教育サポーター

URL
<https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/gakusapo2/gakusapotop/gakusapotop.htm>

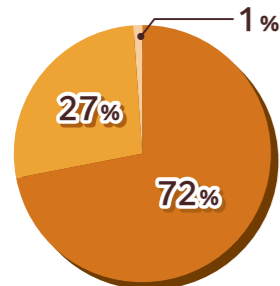


えひめ家庭教育サポート企業連携事業

URL
<https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/kateikyoiuku/kigyoo-top/kigyounenkei.html>

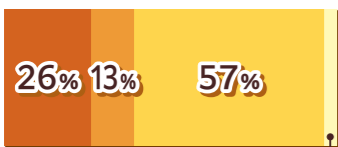


アンケートより…集い全体の感想



- 大いに参考になった
- 参考になった
- あまり参考にならなかった

参加者381人の内訳



- 教職員
- PTA
- 行政・教育関係者・企業・団体
- 一般

本集いは、県教育委員会と愛媛県幼稚園小中学校高等学校PTA連合会連絡協議会と共催で、平成25年度から実施しており、今年度で12回目を迎えました。

このリーフレット及び過去の集いの様子は右の二次元コードから御覧になれます。

URL <https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/tsudoi/tsudoi-top.htm>



発行

愛媛県幼稚園小中学校高等学校PTA連合会連絡協議会

問合せ

愛媛県教育委員会事務局社会教育課
〒790-8570 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2
TEL: 089-912-2933 MAIL: shakaiky@pref.ehime.lg.jp



参加者の提言



- 子どもたちが健やかに育つには、失敗や挫折の経験も重要だと感じています。失敗を許したり、適切なアドバイスをしたりする姿勢を大人が見せることが大切ではないでしょうか。「子ども」としてではなく、「一人の人」として相対できる社会の実現を求め、その一員でありたいと思います。(教職員)
- キャリア教育を愛媛県全体で取り組み、大人も子どもも自分の人生を創造することについて意識啓発し、自己概念を形成する過程を大切に教育の提供をしていくことが大切だと思います。(教育関係団体役員)
- 大人が子どものために教えるのではなく、子どもと共に学べるかというスタンスが大切だということに改めて気付かされました。子どもの「やりたい」を邪魔しない大人の姿、とにかく「楽しんで」活動している大人の姿が結果的に子どもを育てることになると思います。(教職員)
- 地域が子どもたちを自分たちのこととして考え、かつ、全体で楽しめる社会教育活動を考えたいと思います。(保護者)
- 家庭、学校、地域それぞれが子どもを中心に据えた活動の必要性を確認し、将来を見据えたその地域ならではのビジョンを策定し、できることから取り組むことが大切です。(行政職員)
- まず、地域(場所・人)を知ったうえでつながりづくりをし、一緒にできることを考えていきたいです。(保育士)



主催：愛媛県教育委員会 共催：愛媛県幼稚園小中学校高等学校PTA連合会連絡協議会

(愛媛県国公立幼稚園・こども園PTA連合会、愛媛県PTA連合会、愛媛県高等学校PTA連合会、愛媛県私立中学高等学校保護者会連合会)

えがお 愛顔 でつなぐ “学校・家庭・地域” の集い

令和6年度



開催レポート

令和6年8月27日(火)に愛媛県生涯学習センター及びえひめ青少年ふれあいセンターを会場に「令和6年度愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」を開催しました。県内各地から、保護者、教職員及び教育支援関係者等381人が集い、講演や分科会等を通して、社会総がかりで愛媛の子どもたちを育むための方向性を探りました。本集いの様子と参加者の提言をリーフレットにまとめましたので、ぜひ御一読ください。

講演

講師

特定非営利活動法人おむすび理事長

おおはた のぶゆき 大畑 伸幸 氏

「ひとづくり・つながりづくりで 学校が変わる! 地域が変わる!!」



今の子どもたちに必要なこと

学びの本質は、自ら学びたいことを自ら求め、自ら考え、一人でできなかった場合は、仲間と一緒に実現することにあります。しかし、「まじめにやりなさい」「ちゃんとやりなさい」「早くやりなさい」と、子どもたちは失敗しないことを日常的に言われて育っているためか、失敗を恐れてトライをしない子ども、自らやりたいことを発信できない子どもが増えています。益田市では、自らやりたいことや目指したいロールモデルを見つけるために、保護者や教師以外の多様な大人と出会うことが大切だと考えました。

島根県益田市の取組

益田市では、持続可能な地域づくりのために持続可能なひとづくりに取り組みました。その一つが「益田版カタリ場」です。益田版カタリ場とは、子どもたちと地域の大人が1対1で対等に語り合う、子どもと地域の大人がつながることを目的としたキャリア教育のプログラムです。地域の大人との対話の中で、「図書館だった公民館の部屋をリノベーションしたい」、「地域の魅力をもっと多くの人に届けたい」等、子どもたちの「やりたい」がたくさん生まれます。益田版カタリ場では、地域の大人が伴走者となり、子どもたちの「やりたい」を実現していきます。子どもを真ん中に据えたひとづくり・つながりづくりは、未来のまちづくりの主体者をつくることにもつながっています。



参加者の声

- 「まじめにやりなさい。」「ちゃんとしなさい。」「早くしなさい。」という言葉は、問い直さなければならぬと思いました。学校教育に関わる方々と共に学校の在り方についても問い直していきたいです。学校に余白を! 子どもたちに遊びを! (教職員)
- 子どもたちが思う存分、夢中になる経験づくりを意識したいと思います。(地域ぐるみ事業関係者)
- 地元安心して帰ってくる事ができる、世代を超えた関係づくりに感銘を受けました。(公民館関係者)



分科会等

五つのテーマ別分科会等に分かれて、社会総がかりで子どもを育てる体制づくりについて協議しました。

第1分科会 「地域学校協働活動」

幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか

発表1 東温市立北吉井小学校

本校では、地域連携教育推進主任を設置し、校内研修や地域との連携活動を進めた結果、教員の負担感が軽減しました。今後も地域との連携を深め、「地域とともにある学校づくり」を推進していきたいと考えています。



伊藤芽久美 教諭 田房 克寿 氏

発表2 北宇和高等学校三間分校地域情報ビジネス部

地元産の材料を使った「MIMAライスパーガー」の開発・販売や、「美沼フルーツミックス」というスイーツ開発に挑戦し、地域イベントで提供する等、地域との連携を深め、まちの活性化を目指し、様々な取組を継続しています。



福島 奏子 さん・和田 恋羽 さん
猿谷めぐみ 氏・山本 潤也 教諭

助言

一般社団法人コミスクえひめ代表理事 西村久仁夫 氏

北吉井小学校は、学校運営協議会で学校が地域・保護者と一緒にカリキュラムを組み立てており、社会に開かれた教育課程の姿と、推進するための体制づくりの姿が見えました。また、北宇和高校三間分校の実践からは、地域創生に動き始めた高校生の姿と地域人材の姿が見えました。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る。」これが、学校教育の新たな理念です。学校教育は地域との協働に大きく舵（かじ）を切り、地域創生に踏み込んでいかなければなりません。



参加者の声

- コミュニティ・スクールの導入に向けて、よいヒントを得ることができました。子どもが、育ったまちのことを誇りに思えるように自身の計画を見直していきたいと思えます。(公民館関係者)
- 三間分校の生徒・卒業生が学校生活の中で成長して立派な大人となっていることを実感しました。高校生の力、とてもたのもしく思いました。(行政関係者)
- 地域に興味をもつ子どもを育てていくことが重要です。地域の子どもたちを地域で育てることが、次の世代に地域をつなぐ確かな方法だと感じました。(教職員)

第3分科会 「子育て・家庭教育支援」

保護者と子どもを支え育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか

発表 愛媛県教育委員会社会教育課

家庭教育や子育てについて気軽に話し合うきっかけづくりとして作成したのが、「愛媛の子育てトーク&わく応援プログラム集」(以下「トクわく」)です。本プログラムは、子育て中の保護者だけでなく、地域の様々な年代の人たちも対象としていますので、仲間づくり、地域づくりにぜひ御活用ください。

「トクわく」は
二次元コードから



<https://www.pref.ehime.jp/page/1258.html>

「トクわく」を体験し

参加者を4~5人の小グループに分けて、プログラムを体験してもらいました。テーマは「スマホやゲーム機、タブレット等を使うときのルールづくり」です。「時間を制限して使うようにしています。」「使う場所をリビングに限定しています。」等、体験談を交えながら我が家のルールを紹介し合いました。参加者同士のコミュニケーションを通して、子育てについての共感や気づきを学び合う時間となりました。



助言

愛媛大学大学院教育学研究科特定教授 中尾 茂樹 氏

「一人の子どもを育てるのに、村中の大人の協力が必要である。」これは、ある国の諺(ことわざ)です。本来、日本で行われていた子育ての姿です。今、地域のコミュニティの希薄化が指摘されています。「トクわく」の良さは、個々が関わり合っつながり合うことができることです。相手の「思い」に関心を寄せ、その思いを尊重しながら関わることで、関係性が良くなります。良い関係を築き、困ったときに「助けて」と言えるつながりをつくっていただきたいと思えます。



参加者の声

- 良い話し合いができました。みなさんと子どもに関する悩みを共有できたので、有意義な時間となりました。(保護者)
- 「トクわく」を通じて、グループの方とコミュニケーションを図ることができ、人とのつながりのぬくもりを感じました。「トクわく」をどこかで活用したいと思えます。(社会教育関係団体関係者)
- 最初は緊張しましたが、テーマに沿って話していくと、いろいろとトークできたのにびっくりしました。とても楽しかったです!(保護者)

第2分科会 「子どもの居場所づくり」

全ての子ども・若者が安心して過ごせる地域の居場所づくりをどのように進めるか

発表者1 別宮地域食堂「あさかせKAMAN」

「KAMAN」(かまん)とは、「問題ない」という意味の今治の方言です。本地域食堂は、子どもの自立復帰を促すため、地域交流・居場所づくりの拠点として発展してきました。今後も活動を続け、子ども食堂が必要でない社会づくりを目指したいです。



山川 博一 氏 渡辺小百合 氏

発表者2 川之石地区交流拠点施設みなせ

本施設は、年間1万人以上の方が利用し、地域住民の憩いの場となっています。ボランティアグループが育つ風潮に、そして、優しいまちにしたいという思いがあり、今を生きる地域の若者が川之石に愛着を持てる地域、いつか帰ってくる「ふるさと」であり続けたいと考えています。



菊池 敏和 氏

助言

特定非営利活動法人おむすび理事長 大畑 伸幸 氏

「あさかせKAMAN」は、人がつながる場を生み出しています。また、中学生がボランティアで参加しており、人がつながり、循環が生まれています。「食べる」ことは、栄養を取るためだけでなく、対話が生まれたり、親しくなったりという大切な効果があります。「みなせ」は、「好きなことをみんなで作る」という思いで活動しており、子どもたちが施設に集まる素晴らしい取組です。子どもや地域の思いに添った活動こそが地域の課題解決につながります。



参加者の声

- 地域や世代を超えた人々のつながりをつくっていくことが重要であると感じました。自分が住んでいる地域のイベントに積極的に参加しようと思えます。(学生)
- 様々な立場の人から話を聞くことができよかったです。公民館関係の立場として、子どもたちの居場所となる公民館になるように常に考え、発言・行動しようと思えました。(公民館関係者)
- 社会教育関係の仕事に携わりたいと考えています。皆にとって、居場所になる場所をつくりたいです。(学生)

第4分科会 「地域教育の担い手づくり」

子どもと地域をつなぎ、地域の学びを豊かにする人材の育成をどのように進めるか

発表者1 双海町こども教室実行委員会等

双海町子ども教室に参加した卒業生の「何か恩返しをしたい」という思いから「双海町ジュニアリーダー会」が発足しました。多くの地域の方と関わり、楽しみながら活動することで、子どもたちの地域への愛着が育まれており、「笑って暮らせる地域づくり」の一端を担っています。



本多 正彦 氏

発表者2 えひめ地域コーディネーター・ネットワーク

活動・相談ができない地域コーディネーターが孤独で悩むことがないように発足し、毎月オンラインを中心に交流会を行っています。教育、行政、地域等で活動されている方との対話を通して、様々な人となつがる喜びや気づき、自分の成長を感じるだけでなく、地域と学校をつなぐ担い手が自然と増えていく場となっています。



酒井 あい 氏 福本 政代 氏

助言

新居浜市生涯学習センター所長 関 福生 氏

二つの実践に共通するキーワードは「対話」です。対話を通して相手の思いを受け取り、自分の思いを伝えることで、互いの納得解、共通解を見つけていくことができます。社会教育の場では、恩を返すだけでなく、次の世代に恩を送る「恩送り」という発想が大切です。自分だけが力を尽くすのではなく、その地域にいて化学反応を起こす触媒のような人、そして悩みを一人で抱え込むことのないように人と人をつなぐ橋渡しができる人を目指してほしいと思えます。



参加者の声

- 中学生や高校生が主体となって企画・運営するイベントを行いたいと思えます。イベントの成功体験によって、子どもたちが自信をもつだけでなく、地域への愛着が更に高まると思えます。(行政関係者)
- 子どもたちのためのよりよい環境づくりを真剣に考える仲間がたくさんいます。小さな活動の積み重ねを続けていきたいと思えます。(福祉関係者)
- 対話によって地域を大切に思う価値観をつないでおり、すばらしいと思えます。地域の担い手を育てる取組に、私も関わっていききたいと思えます。(教職員)

「県内の社会教育主事及び社会教育主事有資格者の現状」について

1 社会教育主事について

- 社会教育主事は、社会教育法に基づき都道府県・市町村の教育委員会の事務局に置くこととされている専門的職員であり、地域の社会教育事業の企画・実施及び専門的な助言と指導を通し、地域住民の学習活動の支援を行う。

〈参考〉 社会教育法

【第九条の二】 都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に、社会教育主事を置く。

【第九条の三】 社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える。ただし、命令及び監督をしてはならない。

社会教育主事は、学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て教育活動を行う場合には、その求めに応じて、必要な助言を行うことができる。

- 具体的な職務の例

- ① 教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画・立案・実施
- ② 管内の社会教育施設が主催する事業に対する指導・助言
- ③ 社会教育関係団体の活動に対する助言・指導
- ④ 管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施

- 期待される役割

- ・社会教育行政の中核として、地域の社会教育行政の企画・実施及び専門的な助言と指導に当たることを通し、人々の自発的な学習活動を援助すること

- ・「学びのオーガナイザー」(※)として、社会教育行政のみならず、地域における多様な主体の地域課題解決の取組においても、コーディネート能力やファシリテート能力等を発揮し、取組全体をけん引する中心的な役割を担うこと。

※学びのオーガナイザー：様々な主体を結び付け、地域の資源や各主体が有する強みをいかしながら、地域課題を「学び」に練り上げ、課題解決につなげていく人材

- 必要な資質・能力

- ・人と人、組織と組織をつなぐコーディネート能力
- ・人々の納得を引き出すプレゼンテーション能力
- ・人々の力を引き出し、主体的な参画を促すファシリテーション能力

⇒ 社会教育主事講習等規定の一部を改正する省令の公布（令和2年4月1日施行）

2 県内各市町教育委員会の社会教育主事の配置人数

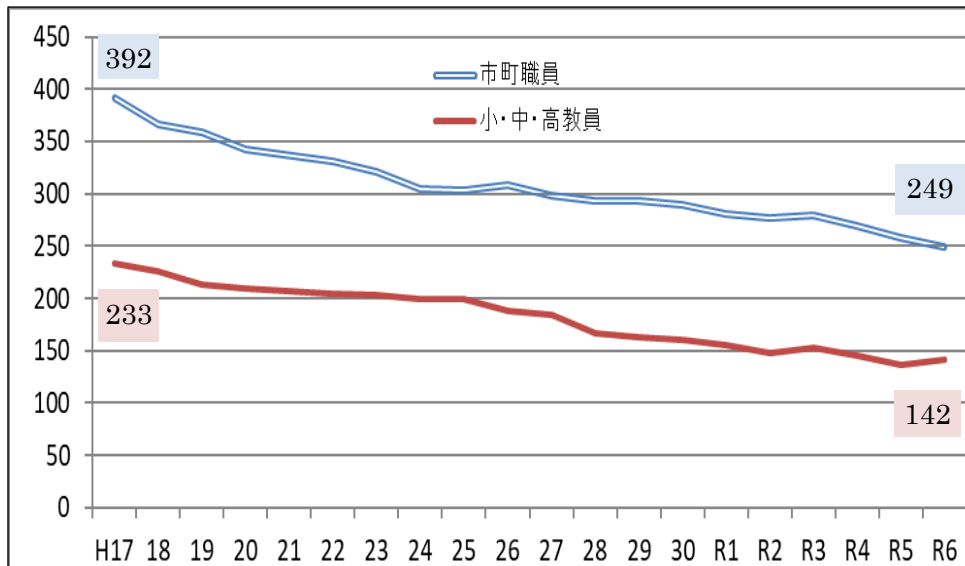
	R6	R5	R4	R3	R2	R1
新居浜市	1	1	1	1	2	2
西条市	1	1	2	0	4	5
四国中央市	1	2	1	1	1	1
今治市	2	2	2	3	3	3
上島町●	1	2	2	3	1	1
松山市	1	1	1	1	1	1
伊予市	1	1	1	2	3	3
東温市	2	0	1	2	3	2
久万高原町●	0	1	0	0	1	1
松前町	1	1	1	2	2	2
砥部町	2	1	1	2	2	3
八幡浜市	1	1	1	1	1	1
大洲市	1	2	2	2	2	2
西予市	3	3	1	1	2	2
内子町	1	1	1	1	1	1
伊方町●	0	0	0	0	0	1
宇和島市	10	9	9	9	0	0
松野町●	0	1	2	1	1	0
鬼北町●	1	1	1	2	1	1
愛南町	2	2	2	2	1	2
合計	31	33	32	36	32	34

令和6年5月1日現在、20市町中17の教育委員会事務局に31名（昨年度比-2）、県教育委員会事務局に18名（昨年度比-2）、合計49名（昨年度比-2）が配置されている。未設置市町は3町（久万高原町、伊方町、松野町）である。

県教委は、全員が教員籍であり、社会教育課、まなび推進課（社会教育課併任）及び各教育事務所地域教育推進課に勤務している。

※人口一万未満の町村（●）にあつては当分の間、社会教育主事を置かないことができる。（社会教育法施行令附則）

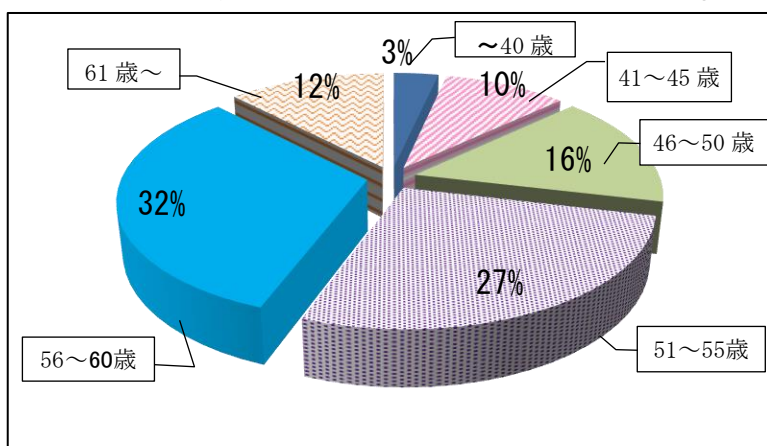
3 愛媛県における社会教育主事有資格者数の推移



社会教育法第9条の4に掲げられたもののうち、社会教育主事の講習を修了した者は有資格者となる。

令和6年5月1日現在、有資格者は県市町職員249名（昨年度比-5）、教員142名【小中教員115名、高校教員27名】（昨年度比+5）であり、減少傾向にある。

4 県内小中学校教員で社会教育主事有資格者の年齢構成



県内小中学校教員（行政職を含む）の年齢構成は、51歳以上が71%、41～50歳が26%、40歳以下が3%と偏りがある。

派遣社会教育主事制度が平成16年度をもって終了し、その後、社会教育主事講習を受講する教員が減っている。

5 社会教育主事講習受講者数の推移

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
講習実施場所	愛媛大学 国立教育政策研究所(愛媛会場)他	香川大学 国立教育政策研究所(愛媛会場)他	鳴門教育大学 国立教育政策研究所(愛媛会場)他	高知大学 国立教育政策研究所(愛媛会場)他	愛媛大学 国立教育政策研究所(愛媛会場)他
受講者数	51	28	19	19	67
内県職員受講者	6	5	5	8	13
内教員受講者	11	2	4	2	12
内その他	34	21	10	9	42

平成26年度から、より多くの方が受講できるように、1月～2月に行われる講習[B]では、地方会場として運営している。

また、令和2年度から社会教育主事講習等規定の一部を改正する省令が施行され、社会教育士の称号が付与されることより、学び直しを行う受講者も増えている。（社会教育士称号付与者132名（昨年度比+24）R7.1.31時点）

さらに令和6年度は、四国地区の大学が持ち回りで実施している講習が愛媛大学で行われたことにより、受講者数は増加している。

受講者数増に向けて、市町教育委員会や社会教育施設のほか、首長部局やNPO等の多様な分野にも引き続き働き掛けを行っていきたい。

令和6年度
「地域教育プロデューサー配置支援事業」の実施状況について

1 「地域教育プロデューサー配置支援事業」とは

市町が地域おこし協力隊制度の活用により、地域教育プロデューサー及び地域教育協力隊を配置する。
県がネットワーク構築、サポートを実施し、地域教育プロデューサー及び地域教育協力隊の活動の支援を図る。

2 本事業のねらい

「地域課題の解決」を目指す学校と地域の橋渡し役・つなぎ役として、市町が「学校を核とした地域づくり」「教育の魅力化による地方創生」「地域への愛着心の育成」を推進するために配置する「地域教育プロデューサー」等を県が登録及びサポートすることで取組の促進を図る。

3 「地域教育プロデューサー」等の役割・業務内容

地域教育プロデューサー等は、配置されるそれぞれの地域の教育課題に応じた業務にあたることから、業務内容は、一律ではなく、多様である。

- (例) 学校と地域社会(地域住民、行政、企業、NPO 等)との協働体制づくり
社会に開かれたカリキュラムづくり
地域社会での学習環境・学習機会づくり
多様性のある教育環境と地域への人の流入の創出
社会関係資本を活用した魅力ある教育環境づくり

4 事業内容

- (1) 情報交換会
【第1回】(参集・オンライン)
・ 令和6年8月28日(水) 会場：県立図書館 第2会議室
講師：特定非営利活動法人おむすび理事長 大畑 伸幸 【参加者26名】
【第2回】
・ 令和7年3月上旬予定(オンライン)
- (2) 事例発表・交流(愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い)
・ 令和6年8月27日(火) 会場：県生涯学習センター、県総合教育センター
・ 分科会 第4分科会「地域教育の担い手づくり」
・ 発表者 本多 正彦(伊予市 地域教育プロデューサー) 【分科会68名】
- (3) 登録証、証明証の発行
・ 令和6年度 新規登録者4名
- (4) その他
【地域政策課、えひめ暮らしネットワークとの連携】
・ 地域おこし協力隊交流研修会への参画
【高校教育課との連携】
・ えひめスーパーハイスクールコンソーシアム「地域活性化サミット」ファシリテーターに推薦
東予地区 河村 俊秀(上島町 地域教育プロデューサー)
中予地区 本多 正彦(伊予市 地域教育プロデューサー)
南予地区 浅越 聖光(鬼北町 地域教育プロデューサー)

5 配置状況 (R7.1.31時点) 地域教育プロデューサー8市町21名、地域教育協力隊2市町3名

① 地域教育プロデューサー

市町名	氏名	登録期間	活動内容
上島町	中山 なぎ	R9.3.31まで	・愛媛県立弓削高等学校の高校魅力化の支援、推進 ・上島町公営塾の運営、学校・地域連携
	河村 俊秀	R9.1.31まで	・愛媛県立弓削高等学校の魅力化の支援、推進 ・弓削高校魅力化コーディネート業務 ・弓削高校と小中学校・地域の連携支援、推進

市町名	氏名	登録期間	活動内容
上島町	栗石まどか	R9. 3. 31 まで	・愛媛県立弓削高等学校の魅力化の支援 ・学校・地域の連携推進
	井上 武	R7. 3. 31 まで	・愛媛県立弓削高等学校の高校魅力化の支援、推進 ・上島町公営塾の運営、学校・地域連携
	大下 凧歩	R9. 3. 31 まで	・愛媛県立弓削高等学校の高校魅力化の支援、推進 ・上島町公営塾の運営、学校・地域連携
	辻村 大樹	R9. 3. 31 まで	・愛媛県立弓削高等学校の高校魅力化の支援、推進 ・上島町公営塾の運営、学校・地域連携
伊予市	本多 正彦	R7. 3. 31 まで	・双海町翠地区ほたる保存会事務局長（環境教育） ・地域教育実践交流会実行委員 ・一般社団法人えひめ暮らしネットワーク参事
東温市	藤岡 慶太	R8. 3. 31 まで	・学校・家庭・地域連携推進事業支援 ・多世代交流拠点施設管理・運営 ・総合型地域スポーツクラブ管理・運営 ・一般社団法人えひめ暮らしネットワーク参事
久万高原町	山路 稜子	R7. 3. 8 まで	・地域の自然や文化を取り入れた総合学習や探究活動の支援 ・教員のための課外学習支援、伴走
内子町	小田原希実	R7. 3. 31 まで	・愛媛県立内子高等学校小田分校の教育魅力化推進
西予市	長岡 湧太	R9. 3. 31 まで	・学校、地域の連携推進
	島田 雄飛	R7. 7. 31 まで	・市内高校の魅力化 ・学校、地域の連携推進
	池ヶ谷実希	R8. 5. 31 まで	・市内高校の魅力化 ・学校、地域の連携推進
	増田 崇人	R9. 2. 28 まで	・市内高校の魅力化 ・学校、地域の連携推進
鬼北町	川井 康悦	R7. 3. 31 まで	・愛媛県立北宇和高等学校の高校魅力化の支援、推進 ・鬼北町公営塾の運営
	藤波 架江	R7. 3. 31 まで	・愛媛県立北宇和高等学校の高校魅力化の支援、推進 ・鬼北町公営塾の運営
	浅越 聖光	R8. 3. 31 まで	・公営塾運営（教科指導・広報活動） ・北宇和高等学校教育サポート
	森實 慧	R8. 3. 31 まで	・愛媛県立北宇和高等学校の高校魅力化の支援、推進 ・北宇和高校魅力化コーディネータ業務 ・北宇和高校教育寮のハウスマスター
	中井 千尋	R8. 3. 31 まで	・北宇和高等学校の高校魅力化事業に関すること ・北宇和高校教育寮ハウスマスター
松野町	六車 浩二	R7. 3. 21 まで	・町内及び近隣小中学校への出前授業 ・電子工作・プログラミング教室開催 ・愛媛大学と連携して農作業ロボットを開発
	川嶋 健佑	R7. 3. 21 まで	・俳句を通じた地域理解への取組及び国語教育

② 地域教育協力隊

市町名	氏名	登録期間	活動内容
内子町	武田 惇奨	R7. 3. 31 まで	・内子町 ICT 教育支援全般
松山市	齋藤 恵子	R7. 3. 31 まで	・調理師免許や野菜ソムリエ、フードコーディネーターの資格を生かした「食」に関するイベントの企画・運営 ・小中学校、高等学校の授業支援 ・地域団体と連携して特産品を開発
松山市	高橋 伸一	R8. 3. 31 まで	・小学校教諭の経験を生かした学校行事等への協力 ・授業支援（音楽・図工・総合・特活等） ・「主体的・対話的で深い学び」への提案・助言



令和6年度「小・中学生のふるさと学習作品展」の実施状況について

1 目 的

私たちのくらしや社会の発展に貢献してきた人物や現在活躍している人物で、愛媛にゆかりの深い人物について、県内小・中学生が夏季休業中等を利用して自主的な調査・研究を行うことにより、学校での「教科」や「総合的な学習の時間」等の学習成果をさらに深化させる。

特に、小・中学生が郷土の人物を題材にして、近隣の人々や文化遺産、社会教育施設等の地域の教育資源や学習の機会を活用した自主的な調査・研究に取り組むことによって、これからの社会を生きる子どもたちの自ら課題を発見し解決する力やコミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力等を養うとともに、郷土への誇りと愛情をはぐくむことを目的とする。

2 主 催 愛媛県教育委員会

3 共 催 株式会社レスパスコポーレーション（愛媛県生涯学習センター指定管理者）

4 後 援

愛媛県市長会・愛媛県町村会・愛媛県市町教育委員会連合会・愛媛県文化協会・愛媛県図書館協会・公益財団法人愛媛県教育会・愛媛県教育研究協議会・愛媛県小中学校長会・愛媛県特別支援学校長会・愛媛県私立中学高等学校連合会・愛媛県PTA連合会・愛媛新聞社・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・FM愛媛・四国中央テレビ・ハートネットワーク・上島町CATV・今治CATV・FMラヂオバリバリ・愛媛CATV・ケーブルネットワーク西瀬戸・八西CATV・西予CATV・宇和島ケーブルテレビ

5 応募状況

- | | |
|-----------|--|
| (1) 応募作品数 | 162点(令和5年度 229点)
(内訳：レポート部門：81点・壁新聞部門：81点)
〈愛媛県生涯学習センターで審査した作品の総数〉 |
| (2) 応募校数 | 38校(令和5年度 49校)
(内訳：小学校：23校・中学校15校) |
| (3) 提出作品数 | 705点(令和5年度 552点)
(内訳：レポート部門：325点・壁新聞部門380点)
〈児童・生徒が、所属小・中学校に提出した作品の総数〉 |

6 作品の傾向

(1) 作品で取り上げられた人物数・・・77人

(2) 作品で取り上げられた人物上位5位

第1位 正岡 子規・・・20名 第2位 十河 信二・・・9名

第3位 伊庭 貞剛・・・6名 第3位 夏目 漱石・・・6名

第5位 広瀬 幸平・・・5名

(3) 話題性のある人物 <上記(2)を除く>

コンドウアキ (イラストレーター) 3名、高瀬準子 (小説家) 1名 等

(4) 今年度取り上げられた主な人物 (分野別)

【学問】

佐伯 矩 (3名)、細川 一 (1名)

【教育】

安部 能成 (1名)、森 盲天外 (1名)

【政治・行政】

藤堂 高虎 (4名)、加藤 嘉明 (4名)、足立 重信 (3名)

【産業】

伊庭 貞剛 (6名)、広瀬 幸平 (5名)、阿部 平助 (4名)

【社会】

十河 信二 (9名)、秋山 好古 (6名)、二宮 忠八 (4名)、河野 兵市 (2名)

【芸術】

コンドウ アキ (3名)、丹下 健三 (3名)、石村 嘉成 (2名)

【文芸】

正岡 子規 (20名)、夏目 漱石 (6名)、坂村 真民 (5名)

【スポーツ】

松山 英樹 (2名)、千葉 茂 (2名)、近藤 兵太郎 (2名)

(5) 作品の傾向

令和6年度は、学校への提出作品数は令和5年度より上回ったが、応募校は、減少している。取り上げられた人物は77名であり、児童生徒一人ひとりの興味関心に基づいた作品が数多く見受けられた。なお、各校での校内審査を経て応募のあった作品の質は年々高くなっている。作品分野については「政治・行政」、「産業」、「社会」、「文芸」の分野に関する人物が多く取り上げられていた。文化遺産、社会教育施設等、地域の教育資源を活用し、意欲的に調査・研究に取り組み、郷土の偉人・賢人について理解を深める中で、児童生徒は地域社会に対する誇りと愛情を育むことができている。また、時事に即した人物や正岡子規ら毎年取り上げられる人物だけでなく、コンドウアキや石村嘉成等の現在活躍している著名人を取り上げた作品も応募があった。このことも本事業の趣旨が浸透してきた現れと考えている。

7 審査・表彰

(1) 特別賞等作品審査会 (13 賞 レポート・壁新聞 2 部門 計 26 点を決定)

ア 日 時 : 令和 6 年 10 月 11 日 (金) 13:30~

イ 場 所 : 愛媛県生涯学習センター

ウ 審査員 : 審査員 11 名

(2) 表彰作品 (応募作品数 : 162 点)

ア 特別賞 26 点<賞状・楯を授与>

(愛媛県知事賞、愛媛県議会議長賞、愛媛県教育委員会教育長賞、愛媛県市長会長賞、愛媛県町村会長賞、愛媛県文化協会会長賞、愛媛県図書館協会会長賞、公益財団法人愛媛県教育会理事長賞、愛媛県小中学校長会長賞、愛媛県教育研究協議会会長賞、愛媛県 P T A 連合会長賞、愛媛新聞社社長賞、愛媛県生涯学習センター所長賞) 各 1 点× 2 部門

イ 優秀賞 20 点<賞状・記念品を授与>

ウ 努力賞 42 点<賞状・記念品を授与>

(3) 表彰式

ア 日 時 : 令和 6 年 11 月 9 日 (土) 10:30~

イ 場 所 : 愛媛県生涯学習センター 大研修室

ウ 被表彰者 : 特別賞受賞者

8 作品展示

	展 示 会 場	展示期間	備 考
1	愛媛県生涯学習センター内 愛媛人物博物館 3F 企画展示室	R 6 . 11 . 9 (土)~ R 6 . 11 . 21 (木)	特別賞・優秀賞 受賞作品を展示
2	愛媛県県民文化会館 (えひめ生涯学習 “夢” まつり作品展示)	R 6 . 11 . 30 (土)~ R 6 . 12 . 1 (日)	特別賞受賞作品 26 点を展示
3	愛媛県歴史文化博物館	R 6 . 12 . 7 (土)~ R 6 . 12 . 25 (水)	特別賞・南予地区優 秀賞受賞作品を展 示
4	フジグラン松山	R 7 . 1 . 10 (金)~ R 7 . 1 . 12 (日)	特別賞・中予地区優 秀賞受賞作品を展 示
5	愛媛県総合科学博物館	R 7 . 1 . 22 (水)~ R 7 . 2 . 6 (木)	特別賞・東予地区優 秀賞受賞作品を展 示

※ 愛媛県生涯学習センターホームページで、受賞作品一覧表及び特別賞作品を掲載

「協働で支えるヤングボランティア推進事業」の実施状況について

1. ヤングボランティアセンターの主な活動について

今年度ヤングボランティアセンターにスタッフとして登録した高校生の数は、900人超であり、ボランティア参加延べ人数は200人を超えた。活動内容としてヤングボランティアセンター主催で高校生が企画・運営するボランティアと他団体が実施するボランティアへの参加を実施しているが、年々高校生が企画・運営するボランティアの割合を増加させているところである。

以下①～⑪は実施したボランティアの概要である。

① 「献血呼びかけ」ボランティア（他団体主催） 愛媛県赤十字血液センターとの連携により、献血の呼びかけを実施
② 愛媛FC「柑太パーク」ボランティア（他団体主催） ホームゲーム開始まで、ニンジニアスタジアム前の広場で子どもたちのレクリエーション活動やチラシ配布・イベント運営の補助等を実施
③ 読み聞かせボランティア（ヤンボラ主催） 事前に紙芝居の演じ方や絵本の読み聞かせの講習会を実施し、後日、県立図書館で開催する定例のおはなし会に参加
④ サイクリングしまなみボランティア（他団体主催） サイクリングしまなみ2024でのスタッフボランティア
⑤ 県民総合文化祭における児童ふれあいボランティア（他団体主催） 高校生が“夢”まつりに来場する子どもたちの制作体験の場を運営
⑥ 児童館ふれあい協働活動（ヤンボラ主催） 東中南予各地域の児童館と連携し、高校生が児童館に来場する子どもたちの制作体験の場を運営。実習前の研修、実習後の報告会を実施
⑦ 1 day ジェンカレ研修会（他団体主催） ジェンダー平等について大人と一緒に考える研修会に参加し高校生の立場からの意見をグループ内、及び全体で発表
⑧ 図書館整理ボランティア（他団体主催） 愛媛県男女共同参画センター図書館の整理を実施
⑨ 図書館引っ越しボランティア（他団体主催） 愛媛県立図書館の移転に伴う引っ越しの補助を実施
⑩ えひめ男女共同参画フェスティバルボランティア（ヤンボラ主催） えひめ女性財団（県男女共同参画センター管理）主催のフェスティバルにおいて、メイン展示の作成、ステージ発表の司会を担当
⑪ 手話で伝える伝わるボランティア（ヤンボラ主催） 愛媛県立松山聾学校と連携し、手話教室（3回）、及び手話を用いた献血呼びかけボランティア（2会場）を実施。

2. 今年度の事業成果と今後の取組

今年度7月のヤングボランティアセンター移転に伴い、移転先の愛媛県男女共同参画センター及びえひめ女性財団と協働して企画・実施するボランティアを複数新規で実施できたことで、企画会議、準備、運営にかかわる高校生スタッフのヤングボランティアセンター利用数が大幅に増加した。

昨年度に引き続き、ボランティア募集に対する応募数が軒並み定員を大幅に超えている状況から、本事業が高校生の間で広く認知されていることが見受けられる。また、高校生の企画・運営による活動では、二度、三度と参加し、参加回数を重ねるにしたがって積極的かつ建設的な発言をする高校生が複数見られたため、ボランティア精神の醸成についての効果も実感しているところである。他団体への参加型ボランティアについては、高校生がボランティアに携わるきっかけとして重要であることから、来年度も継続的に行いたいと考えている。

今後も更なる活動の拡充を目指し、高校生の発想力や創意工夫を引き出しながら、主体的にボランティア活動に取り組む人材の育成に取り組んでまいりたい。